

## 2 令和7年度事業の実績

### 重点(1)学校・家庭・地域の連携・協働による未来を担う人財の育成

#### ア コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

#### 県生涯学習課

地域と学校とのパートナーシップ強化事業 4,458千円

##### 【事業目的及び概要】

これまでの取組を通じて形成されてきた人財や地域の活動団体等とのつながりを活かし、学校と地域のネットワークをより着実なものとして、地域学校協働活動の推進を図ることを目的として、学校と地域が互いの理解を深め、連携・協働を図りやすい環境の整備や、地域学校協働活動推進員等によるコーディネート機能の強化を促進し、地域全体でこどもたちの成長を支えていく体制を整備した。

##### 【事業内容】

#### (1) 地域と学校の交流会

「学校が望む地域との連携・協働」をテーマに、地域学校協働活動の先進事例等について学び、それぞれの取組などを情報交換して、学校との連携の在り方を模索するとともに、学校関係者と、学校への協力を申し出ている企業や学校との連携を希望する地域活動者、町内会関係者等が一堂に会して交流を深め、互いの理解を促進した。

##### ア 地域活動者・企業が学ぶ場と情報交換会

○講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき

○講義：テーマ「私たちにできる教育支援活動～地域学校協働活動の推進～」

○情報交換：テーマ「私たちにできる教育支援活動」

・企業等による教育支援活動の紹介

発表者：〈西北地区〉特別養護老人ホーム桑寿園 生活相談員 伊藤 伸哉

〈下北地区〉山内土木株式会社 管理部 二本柳 郁也

・ワークショップ「参加者同士で、これまでやってきた(やってみたい)教育支援活動について」

○日時・会場・参加者数

〈西北地区〉7/29(火) つがる市生涯学習交流センター「松の館」 25名参加

〈下北地区〉7/30(水) 下北文化会館 中止

##### イ 学校と地域のネットワークづくり

○講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき

○情報交換：テーマ「みんなで育む地域のこどもたち」

○日時・会場・参加者数

〈下北地区〉9/30(火) 下北文化会館 25名参加

〈西北地区〉10/1(水) つがる市生涯学習交流センター「松の館」 29名参加

#### (2) 市町村地域学校協働活動支援

##### ア 地域学校協働活動研修

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進についての理解を深めるため、教育委員会担当者や教職員等を対象とし、文部科学省の動向、県内外の先進事例等を学ぶ研修会を開催した。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	7/29(火)	県総合社会教育センター	44名(6名)
西北	8/18(月)	つがる市生涯学習交流センター「松の館」	43名(1名)
中南	7/4(金)	弘前市立中央公民館相馬館長慶閣	43名(7名)
上北	7/28(月)	東北町北総合運動公園トレーニングセンター	52名(2名)
下北	8/19(火)	むつ市中央公民館	19名(0名)
三八	9/2(火)	ハートフルプラザ・はしかみ	45名(9名)

※参加者数の( )は、オンラインによる参加者数(内数)

○対象：市町村教育委員会職員、指導主事、社会教育主事、社会教育士、小・中・義務教育学校・

県立学校教職員、地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員等

- 講師：ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋 宏之(CSマイスター)  
 一般社団法人 S. PLACE 代表理事 井上 尚子(CSマイスター)  
 明星大学教育学部教育学科 特任教授 朝倉 美由紀(CSマイスター)

イ 市町村地域学校協働活動相談支援

安定的な地域学校協働活動推進のために、市町村の本部整備や推進員配置、これらの有効な活用について、当課職員や統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員が相談対応するほか、先行市町村等との仲介をするなどして、課題解決のためのサポートを行った。

期日	研修会名等	主催	主な対象
5/23 (金)	管内社会教育関係課長・公民館長及び担当者会議	西北教育事務所	生涯学習・社会教育関係課長、公民館長等
6/11 (水)	十和田市教頭会実務研修会	十和田市教頭会	十和田市教頭会会員(小・中学校)
6/27 (金)	五所川原市地域学校協働活動推進員研修会	五所川原市教育委員会	五所川原市地域学校協働活動推進員
7/25 (金)	弘前市立裾野小学校現職教育	弘前市立裾野小学校	裾野小学校職員・学校運営協議会委員等
9/22 (月)	風間浦村におけるCS導入に向けての説明	風間浦村教育委員会 県教育委員会	村教育委員会職員
9/26 (金)	地域と学校との連携による防災学習	むつ市教育委員会	大畑中学校全校生徒
10/23 (木)	平川市地域学校協働活動研修会	平川市教育委員会	平川市立小・中学校職員、地域学校協働活動推進員
11/20 (木)	第2回新郷村小中学校学力向上連帯事業協議会	新郷村教育委員会	新郷小・新郷中学校教職員
2/9 (月)	弘前市コミュニティ・スクール関係者研修会	弘前市教育委員会	学校運営協議会委員、地域コーディネーター等

ウ CSマイスター派遣事業(文部科学省) プッシュ型派遣への対応

文部科学省の事業により、野辺地町、東北町、新郷村の3町村と、県立青森中央高等学校、県立木造高等学校、県立八戸商業高等学校の3校を対象とした研修会にCSマイスターを派遣した。

○研修会の概要

6/16(月) 県立青森中央高等学校研修会

講師：高野 睦

対象：教職員

内容：コミュニティ・スクールの概要(制度、実施状況等)紹介と熟議体験、質疑応答等

8/20(水) 野辺地町教育委員会主催研修会

講師：森 万喜子

対象：教育委員会担当者、小・中学校関係者

内容：コミュニティ・スクールの概要(必要性の背景、活用法等)紹介と熟議体験、質疑応答等

9/ 1(月) 東北町教育委員会主催研修会

講師：森 万喜子

対象：教育委員会担当者、小・中学校関係者

内容：コミュニティ・スクールの概要(必要性の背景、活用法等)紹介と熟議体験、質疑応答等

9/11(木) 新郷村教育委員会主催研修会

講師：高野 睦

対象：村長部局職員、教育委員会担当者、小・中学校管理職

内容：コミュニティ・スクールの概要(制度、実施状況、導入に向けての準備等)紹介と熟議体験、質疑応答等

9/24(水) 県立木造高等学校研修会

講師：高野 睦

対象：教職員

内容：コミュニティ・スクールの概要(制度、実施状況等)紹介と熟議体験、質疑応答等

11/19(水) 県立八戸商業高等学校研修会

講師：森 万喜子

対象：教職員

内容：コミュニティ・スクールの概要(必要性の背景、活用法等)紹介と熟議体験、質疑応答等

(3) モデル県立学校への地域学校協働活動推進員配置

学校運営協議会を設置している県立学校のうち3校にモデル校として推進員を配置し、県立学校におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進と、教職員の働き方改革への効果等について、検証を行う。

○モデル校：県立黒石高等学校、県立森田養護学校、県立八戸高等支援学校  
(コミュニティ・スクール導入済みの県立学校より3校)

○成果報告会の概要

・期日：7/3(木)

・対象、実施方法：地域学校協働活動推進員配置モデル校(教職員、推進員)・・・会場参集  
上記以外の県立学校関係教職員・・・オンライン参加  
(報告会終了後、YouTubeにてアーカイブ配信を行った。)

・場所：青森県庁東棟5階538会議室(参集の対象者のみ)

・助言者：岡山県青少年教育センター関谷学校所長 香山 真一(CSマイスター)

・内容：モデル校からの実践報告、助言者による助言

・参加者数：会場参集6名(モデル校)、オンライン参加40名(モデル校以外)

(4) 県立高等学校CS導入促進

県立高等学校教職員を対象とした研修会を開催し、体制の構築や先進事例等について学び、コミュニティ・スクール導入に向けて理解促進を図る。

○期日：11/25(火)

○場所：県総合社会教育センター

○対象：県立学校教職員(管理職、地域連携を担当する教員等)

○講師：青少年と家族の未来研究所 代表 増渕 広美(元CSマイスター)

○参加者数：31名

[成果]

- ・参加者が、地域と学校の連携の在り方や地域学校協働活動について学び、教育支援活動への理解を深める機会と場を提供することができた。また、地域活動者や企業関係者、町内関係者、学校関係者等が意見交換を行い、交流を図ることができた。
- ・地域学校協働活動研修では、県内6地区で計246名が参加した。今年度は地域学校協働活動推進員や学校運営協議会委員、教育委員会担当者の参加が増えた。参加者は、文部科学省の動向や県内外の好事例、それぞれの立場の役割やコミュニティ・スクール等について理解を深めることができた。
- ・モデル県立学校へ地域学校協働活動推進員を配置したことにより、教育活動の充実と教員の働き方改革に効果があることが認められた。

[課題]

- ・地域、企業、学校それぞれの関係者の参加を増やし、参加者同士のつながりを広く構築することにより、互いの連携・協働が図られるよう、事業の趣旨がより伝わる周知の方法を工夫する必要がある。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する理解度は、個人によって大きな差が見られることから、教員だけではなく、指導主事や社会教育主事等へも積極的に地域学校協働活動研修への参加を働きかけ、理解を深めていく必要がある。
- ・県立学校における地域学校協働活動推進員が未配置の地区がある。県域全体でコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進していくために、推進員の配置拡大と活動の充実が必要である。

学校・家庭・地域連携協働推進事業 41,529 千円

1 地域学校協働活動推進事業(県事業) 2,529 千円

【事業目的及び概要】

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することを目的とし、継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

【事業内容】

(1) 会議の開催

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進及び放課後児童対策の在り方を検討するとともに、市町村担当者を対象とした連絡会議を開催し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進及び放課後児童対策の推進を図った。

ア 学校・家庭・地域連携推進委員会

○期日：2月中旬(大雪のため書面開催)

○委員

No.	氏名	所属等	備考
1	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 非常勤講師	委員長
2	若松 大輔	弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻 助教	
3	舘 千春	五戸町立切谷内小学校 校長	
4	今井 一仁	五所川原市立五所川原第二中学校 校長	
5	棟方 丈博	県PTA連合会 会長	
6	工藤知久子	青森市立浦町中学校区学校運営協議会 CSディレクター	
7	春藤 千秋	むつ市教育委員会事務局生涯学習課 社会教育指導員	
8	木村小百合	県立森田養護学校 地域学校協働活動推進員	
9	工藤 清行	県立黒石高等学校 地域学校協働活動推進員	
10	神林 宏喜	県立八戸高等支援学校 地域学校協働活動推進員	
11	工藤 瑞季	中泊町教育委員会教育課 主査	
12	野崎 広典	おいらせ町教育委員会社会教育・体育課 主幹	
13	工藤 和也	藤崎町住民課子育て支援係 係長	
14	佐々木史子	平内町こみなと放課後児童クラブ 主任児童指導員	
15	木村 未来	五戸町なかよしクラブ 支援員	

イ 放課後児童対策に係る市町村担当者連絡会議

○期日：6/18(水)

○場所：県総合社会教育センター第1研修室及び第5研修室

○対象：放課後児童対策に係る市町村担当者(社会教育主管課及び福祉部局)

○参加者数：59名

(2) 研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

○目的：地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図る。

○期日：6/6(金)

○場所：県総合社会教育センター 第1研修室

○参加者数：35名

○内容：講義・演習 「シン・社会教育で、地域と学校の持続可能&幸せな未来をつくろう」

講師 岩手県生涯学習振興協会 事務局長 佐々木 勉

イ 放課後児童対策に係る支援員等研修会【主管：各教育事務所】

○目的：放課後児童対策の事業等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催する。

○期日：前後期各1日

地区	前期	後期
東青	6/10(火)	9/10(水)
西北	5/30(金)	10/3(金)
中南	7/11(金)	9/22(月)
上北	6/9(月)	10/29(水)
下北	6/20(金)	10/9(木)
三八	6/3(火)	10/9(木)

○対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動リーダー、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童支援員等

(3) 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員の配置

県内の地域学校協働活動を推進するため、統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員(地域学校協働活動コーディネーターアドバイザー)を配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進、情報提供等を行った。

<主な活動実績>

○情報提供等

- ・十和田市教頭会実務研修会(6/11(水))
  - ・五所川原市地域学校協働活動推進員研修会(6/27(金))
  - ・弘前市立裾野小学校現職教育(7/25(金))
  - ・平川市地域学校協働活動研修会(10/23(木))
  - ・弘前市コミュニティ・スクール関係者研修会(2/9(月))
- ※「地域と学校とのパートナーシップ強化事業」に記載したもののうち、主となる講師等を務めたものを転記。

○情報発信「みんながつながる 地域学校協働活動便り」発行

第18号(6/25(水))、第19号(10/24(金))、第20号(11/26(水))、第21号(1/5(月))、第22号(3/18(水))

・市町村教育委員会、県立学校等へ配布

## 2 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助 39,000千円

[事業目的及び概要]

学校・家庭・地域が連携・協働して、自立的・継続的にこどもを取り巻く課題を解決できる地域社会を目指すため、市町村が行う地域学校協働活動の推進に要する経費について、県が補助を行う事業である。

[事業内容]

地域学校協働活動(放課後子供教室を含む。)の取組を行う市町村(中核市を除く。)に補助金を交付する。

【国庫補助 1/3、県補助 1/3、市町村負担 1/3】

交付先 19市町村、地域学校協働本部 29本部、放課後子供教室 72教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 五所川原市 つがる市 鱒ヶ沢町 鶴田町 中泊町 弘前市  
平川市 大鰐町 十和田市 三沢市 おいらせ町 むつ市 風間浦村 佐井村 三戸町  
五戸町

[成果]

- ・地域学校協働活動に携わる人や、放課後児童対策に係る支援員等の資質向上のほか、関係者同士の繋がりを構築することができた。
- ・今年度も複数の自治体から、統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員に講師依頼があった。自治体の現状やニーズに合った情報提供を行うことができ、自治体担当者や参加者の地域学校協働活動に対する理解が深まった。

- ・各市町村におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進が促された。

#### 【課題】

- ・国の放課後児童対策パッケージ等に対して、引き続き、こども家庭部と連携しながら、市町村における課題解決と円滑な取組促進が図られるように支援していく必要がある。
- ・参加者の高い満足度を維持できるよう、日程調整や研修内容に配慮する必要がある。
- ・安定的な地域学校協働活動推進のために、研修会での講師、市町村教育委員会の担当者及び地域学校協働活動推進員への情報提供や指導・助言などを通じたサポートを今後も継続していく必要がある。

### 特別支援学校におけるコミュニティ・スクール導入事業 3,622千円

#### 【事業目的及び概要】

県内全ての県立特別支援学校に設置されている学校運営協議会制度について、その仕組みを生かした学校と地域の連携・協働体制の構築を目指す事業である。

#### 【事業内容】

○導入校：県立特別支援学校全20校

(1) 各校における学校運営協議会の実施

○学校運営協議会委員を10名以内で任命

○年4回程度の実施

○場所、日時は各学校で設定

○年度末に学校運営協議会活動状況報告書を提出

(2) コミュニティ・スクール連絡会議(特別支援学校)の実施

○対象：県立特別支援学校関係教職員

○期日：9/9(火)

○実施方法：オンライン

○内容：生涯学習課からの情報提供、各校の取組に係る情報提供(事例紹介、質疑応答)、運営上の課題等に係る意見交換

#### 【成果】

- ・当課にコミュニティ・スクール業務が移管されたことに伴い、高等学校の事業費の単価等と整理を行った。そのことから、各学校が多様な委員を任命し、学校運営協議会も年4回程度実施できるように体制を整えることができた。
- ・コミュニティ・スクール連絡会議(特別支援学校)を実施することにより、各学校の取組の工夫や課題等の実情を共有することができた。

#### 【課題】

- ・学校運営協議会が形骸化しないように、研修会や連絡会議の実施や協議会への視察等を継続して行い、伴走支援を行う必要がある。
- ・法改正により、令和8年度から、各校の校長が毎年度、学校運営協議会の承認を得ることとなっている学校運営に関する基本的な方針の内容に、業務量管理・健康確保措置の実施に関する事項を加えることとなる。その具体的な実施方法等について、他県の例などの情報を集め、各校へ情報提供をし、助言する必要がある。

### 高等学校におけるコミュニティ・スクール導入モデル事業 3,433千円

#### 【事業目的及び概要】

全国的に拡充している県立高等学校へのコミュニティ・スクールの導入について、その実施モデル校での取組効果等を踏まえ、学校運営協議会制度の仕組みを生かした学校と地域の連携・協働体制の構築を目指す事業である。

#### 【事業内容】

○導入校：県立高等学校(22校)

- ・既導入校：青森西、弘前、弘前南、鱈ヶ沢、黒石、百石、大湊、大間、十和田工業、八戸水産、三沢商業、八戸中央、尾上総合高等学校(13校)

- ・新規導入校：青森北、八戸、八戸東、八戸西、野辺地、六ヶ所、三戸、名久井農業、北斗高等学校(9校)

- (1) 各校における学校運営協議会の実施  
 ○学校運営協議会委員を10名以内で任命  
 ○年4回程度の実施  
 ○場所、日時は各学校で設定  
 ○年度末に学校運営協議会活動状況報告書を提出
- (2) コミュニティ・スクール連絡会議(高等学校)の実施  
 ○対象 : コミュニティ・スクール導入校(県立高等学校)関係教職員  
 ○期日 : 9/9(火)  
 ○実施方法 : オンライン  
 ○内容 : 生涯学習課からの情報提供、各校の取組に係る情報提供(事例紹介、質疑応答)、運営上の課題等に係る意見交換

#### [成果]

- ・当課にコミュニティ・スクール業務が移管されたことに伴い、特別支援学校の事業費の単価等と整理を行った。そのことから、各学校が多様な委員を任命し、学校運営協議会も年4回程度実施できるように体制を整えることができた。
- ・コミュニティ・スクール連絡会議(高等学校)を実施することにより、各学校の取組の工夫や課題等の実情を共有することができた。

#### [課題]

- ・学校運営協議会が形骸化しないように、研修会や連絡会議の実施や協議会への視察等を継続して行い、伴走支援を行う必要がある。
- ・法改正により、令和8年度から、各校の校長が毎年度、学校運営協議会の承認を得ることとなっている学校運営に関する基本的な方針の内容に、業務量管理・健康確保措置の実施に関する事項を加えることとなる。その具体的な実施方法等について、他県の例などの情報を集め、各校へ情報提供をし、助言する必要がある。

### 重点(1) イ キャリア教育支援の仕組みづくりの推進

#### 県生涯学習課

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 1,759千円

##### [事業目的及び概要]

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図り、市町村の社会教育主事等の資質・能力の向上を図るため、首長部局、企業、NPO法人、地域づくり団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施した。

##### [事業内容]

- (1) 社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決【2地区 主管:中南教育事務所・三八教育事務所】  
 社会教育主事等が中心となり、首長部局、NPO法人、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。
- ア 中南地区(西目屋村)
- ＜地域課題解決スタートアップ研修会＞  
 ○期日:7/30(水) ○会場:西目屋村中央公民館 ○参加者数:15名  
 ○内容:事業説明、ワークショップ形式による協議
  - ＜第1回実行委員会＞  
 ○期日:9/4(木) ○会場:西目屋村中央公民館 ○参加者数:11名  
 ○内容:委員長、副委員長の決定、活動内容・計画についての話し合い
  - ＜第2回実行委員会＞  
 ○期日:2/26(木) ○会場:西目屋村中央公民館 ○参加者数:11名  
 ○内容:事業の振り返り及び今後の活動等についての話し合い
  - ＜事業の実践＞  
 イベント「スポーツをすくもどもの体づくり」の開催  
 ○期日:12/21(日) ○会場:西目屋小学校体育館 ○参加者数:21名

○内容：小学生とその主たる保護者を対象として、栄養学や体づくりに関する講演及び体組成計測やメディカルチェック等の体験活動を実施した。

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○期日：2/26(木) ○会場：西目屋村中央公民館 ○参加者数：26名

○内容：中南地区実行委員会による実践発表及び質疑応答、意見交換

イ 三八地区(三戸町)

<地域課題解決スタートアップ研修会>

○期日：8/6(水) ○会場：三戸町中央公民館 ○参加者数：21名

○内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

<第1回実行委員会>

○期日：9/16(火) ○会場：県立三戸高等学校 ○参加者数：12名

○内容：実行委員長、副委員長の決定、活動内容及び計画について

<第2回実行委員会>

○期日：9/30(火) ○会場：県立三戸高等学校 ○参加者数：12名

○内容：本イベントについての打合せ・準備

<第3回実行委員会>

○期日：10/10(金) ○会場：県立三戸高等学校 ○参加者数：12名

○内容：本イベントについての打合せ・準備

<事業の実践>

「三戸ゆるみらいトーク」の開催

○期日：10/11(土) ○会場：国史跡三戸城跡・城山公園 ○参加者数：28名

○内容：三戸高校、小中一貫三戸学園、近隣高校の生徒及び地域の大人を対象として、交流活動(レクリエーションやデイキャンプ体験)、たき火トーク等を実施した。

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○期日：2/27(金) ○会場：三戸町中央公民館 ○参加者数：31名

○内容：三八地区実行委員会による実践発表及び質疑・情報交換を行った。

[成果]

- ・実行委員会立上げから事業の企画・準備・運営を行う中で、多様な主体とのつながりが生まれ、地域づくりに関係する人財同士のネットワークが広がった。
- ・地域課題を解決するための方策を、地域の企業、大学、病院等と連携し専門的な知識を基に事業の実践を行うことができ、地域にある資源を活用しつながりを作り出すことができた。(中南地区)
- ・高校生が中心となって企画・運営を行うことができ、実践的な経験を通じて若者の人材育成を図ることができた。また、SNSを活用した情報発信により取組をPRすることができた。三戸町の社会教育主事が地域の多様な人材と関わり、事業の企画・実践を支援することで資質・能力の向上につながった。(三八地区)

[課題]

- ・本イベントへの集客を増やすために、開催日時や周知方法等を工夫していくことが必要である。
- ・スタートアップ研修会やフォローアップ研修会において、主たる事業実施自治体以外からの参加者が少なかった。域内の市町村への周知活動を工夫する必要がある。

(2) キャリア教育の推進【6地区 青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

<事業内容及び結果>

ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

学校、企業、教育支援プラットフォーム、地域学校協働本部等の関係者同士がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域の未来を担う人財像を共有するため、各地区において会議を開催し、関係者同士による意見・情報交換を行った。

<東青地区>

期日	場所	内容
11/17(月)	青森市立北小学校	参加企業 4 社
11/19(水)	青森市立浪打中学校	参加企業 8 社
11/28(金)	青森市立新城中央小学校	参加企業 10 社
12/1(月)	青森市立大野小学校	参加企業 7 社
12/4(木)	青森市立古川中学校	参加企業 5 社
12/10(水)	青森市立浦町小学校	参加企業 10 社
12/16(火)	青森市立金沢小学校	参加企業 8 社

<西北地区>

○期日：10/29(水)

○場所：中泊町立中里中学校

○内容：職業講話終了後、企業の取り組み、学校から期待すること、実行委員会の取り組み方、職業講話におけるこどもたちへの関わり方等について、企業・学校・実行委員会の出席メンバーで意見交換を行った。

<中南地区>

○期日：8/21(木)

○場所：アートホテル弘前シティ

○内容：地区内高等学校卒業予定者の地元就労について、情報交換を通して、早期から健全な職業観・勤労観の育成についての取組を協議し、地元就労促進に役立てる機会とすることを目的として講演会を実施した。

○講師：和電工業株式会社 代表取締役社長 藤田 あつ志

<上北地区>

○期日：1/27(火)

○場所：十和田市商工会館

○内容：十和田地区雇用対策協議会と共催で開催し、「若者の地元定着に向けて考察～企業・地域ができる事・すべき事」をテーマに講演とワークショップを実施した。

○講師：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長 米田 大吉

<下北地区>

○期日：7/7(月)

○場所：むつグランドホテル

○内容：むつ商工会議所と連携して、「むつ下北地区高卒者雇用対策協議会」の第2部として実施し、「むつ下北の可能性～地域おこし協力隊の経験から」をテーマに講演会を実施した。

○講師：むつ市集落支援員 小池 拓也

<三八地区>

期日	場所	内容
10/23(木), 12/4(木), 12/16(火), 1/16(金), 1/28(水), 2/12(木)	八戸市立小中野中学校 (全6回)	参加企業 6 社

イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録及び登録企業の周知

各実行委員会とも関係機関と連携して情報収集しながら、新たに「我が社は学校教育サポーター」に登録する企業の新規開拓を行った。また、「我が社は学校教育サポーター」に登録されている企業について、さらなる活用を促進するために、登録企業の周知を学校等に対して行い、企業による教育支援活動の一層の充実を図った。

ウ キャリア教育推進のためのコーディネート業務

学校からの要望に応じて、地元企業・NPO等が実施している教育支援活動(出前授業・インターンシップ・体験活動等)に係るコーディネートを行った。

## &lt; 東青地区 &gt;

期日	学校名	内容
11/17(月)	青森市立北小学校	職業講話
11/19(水)	青森市立浪打中学校	職業講話
11/28(金)	青森市立新城中央小学校	職業講話
12/1(月)	青森市立大野小学校	職業講話
12/4(木)	青森市立古川中学校	職業講話
12/10(水)	青森市立浦町小学校	職業講話
12/16(火)	青森市立金沢小学校	職業講話

## &lt; 西北地区 &gt;

期日	学校名	内容
10/29(水)	中泊町立中里中学校	職業講話

## &lt; 中南地区 &gt;

期日	学校名	内容
7/2(水)～7/3(木)	弘前市立第四中学校	職場体験
7/3(木)～7/4(金)	弘前市立北辰中学校	職場体験
8/28(木)～8/29(金)	大鰐町立大鰐中学校	職場体験
10/23(木)～10/24(金)	弘前市立第三中学校	職場体験
2/5(木)	県立尾上総合高等学校	職業講話

## &lt; 上北地区 &gt;

期日	学校名	内容
7/3(木)	おいらせ町立下田中学校	職業講話
7/10(木)	県立七戸高等学校	ビジネスマナー講習会
11/6(水)	六戸町立義務教育学校六戸学園	職業講話
11/11(火)	おいらせ町立甲洋小学校	職業講話
11/13(木)	三沢市立第一中学校	職業講話
11/21(金)	七戸町立天間林小学校	職業講話
11/25(火)	十和田市立西小学校	職業講話
12/5(金)	七戸町立城南小学校	職業講話
12/12(金)	十和田市立藤坂小学校	職業講話
12/16(火)	野辺地町立野辺地小学校	職業講話
2/2(月)	十和田市立北園小学校	職業講話
2/16(月)	十和田市立四和小学校	職業講話

## &lt; 下北地区 &gt;

期日	学校名	内容
7/1(火)	むつ市立第一田名部小学校	職業講話
9/16(火)	大間町立大間小学校	職業講話
9/25(木)	むつ市立苫生小学校	職業講話
10/31(金)	むつ市立大平小学校	職業講話
11/25(火)	東通村立東通小学校	職業講話
11/27(木)	むつ市立大畑小学校	職業講話
12/15(月)	むつ市立奥内小学校	職業講話

## &lt; 三八地区 &gt;

期日	学校名	内容
10/23(木), 12/4(木), 12/16(火), 1/16(金), 1/28(水), 2/12(木)	八戸市立小中野中学校 (全6回)	職業講話
2/2(月), 2/3(火), 2/9(月), 2/10(火), 2/12(木), 2/13(金), 2/20(金)	八戸市立小中野中学校 (全7回)	職業講話

**[成果]**

- ・地域内の学校、企業、NPOなどの関係者が互いに信頼関係を構築し情報共有を進めることで連携を強化し、企業の教育支援活動参画が促進され、学校は教育支援プログラムの活用で活動が充実した。さらに、会議等を通じ課題解決の提案が進み、関係者の満足度向上が図られた。

**[課題]**

- ・事業が始まって年数が経過したことで、青森県教育支援プラットフォーム(「我が社は学校教育サポーター」を含む。)の行う取組が地域内に定着し、地域の教育活動に一定の成果をもたらしているが、地区内活動に濃淡がある。今後、地域における新たな教育課題解決に向けた教育支援体制整備や地区内活動の濃淡解消を視野に入れていく必要がある。

**いじめ防止キャンペーン推進事業 5,686千円**

**[事業目的及び概要]**

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀作品を広告動画を通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

**[事業内容]**

(1) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞6作品、審査員特別賞4作品を選定した。

○募集期間：6/9(月)～8/29(金)

○応募数：6,178作品(小学校3,795作品、中学校2,149作品、高等学校172作品、特別支援学校58作品、一般4作品)

○受賞作品

優秀賞	気づいてる? 相手に向けたの 言刃だよ	県立青森西高等学校 1年 平山 緋裳斗
	やさしさが 広がる教室 いじめゼロ	弘前市立第三中学校 3年 原子 駿哉
	見逃すな 助けを求め 小さな声	むつ市立大平中学校 2年 板垣 那海
	あなたが楽しいその「いじり」	階上町立道仏小学校 6年 瀧谷 怜央
	「いじめ」につながる第一歩	十和田市立西小学校 3年 杉山 采方子
	さしのべた そのてはきっと すくいので	つがる市立稲垣小学校 4年 千葉 莉桜
審査員特別賞	一人でも 味方がいれば 変わる明日	県立青森工業高等学校 3年 外山 泰成
	「大丈夫」 隠した気持ち 見逃すな	県立五所川原高等学校 2年 石岡 楓月
	どうしたの? すこしのへんかに きづくぼく	県立七戸養護学校 小学部3年 浦田 吟
	だいじょうぶ? みんなでまもる おともだち	青森市立新城小学校 1年 野村 和叶

(2) Web 広告

ア 令和6年度制作「いじめ防止キャンペーン動画」をYouTube、Instagram、TikTokにてWeb広告配信(5/1～5/15、7/16～8/31、12/16～1/31)

イ 令和7年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用した動画を制作し、YouTube、Instagram、TikTok、TVerにてWeb広告配信(3/1～3/15)

ウ 令和7年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用した動画を制作し、ファミリーマートのデジタルサイネージにて広告配信(3/3～3/16)

**[成果]**

- ・小学校、中学校、高校、特別支援学校の児童生徒に加え、一般県民からも応募があり、合計6,178件の標語が集まった。これにより、幅広い層へのいじめ防止意識啓発が進んだ。
- ・教育活動内で標語作成が活用されたことから、学校全体でいじめ問題に対する意識向上を図る機会となった。
- ・YouTube、Instagram、TikTokといった多様な媒体に加え、今年度は新しくTVerを活用し、若い世代を含む幅広い層にいじめ防止のメッセージを届けることができた。
- ・地域住民が利用する店舗での広告配信により、地域内でもいじめ防止への関心を広める機会が生まれた。

**[課題]**

- ・いじめ防止に向けた取組は、単発的な啓発活動に留まることなく、継続して意識啓発を行う必要がある。
- ・成果や効果を適切に検証し、次年度以降の事業運営に反映させる仕組みが必要である。
- ・本事業において制作した動画の活用に関して、さらに周知していく必要がある。
- ・啓発活動が目的どおりに効果を発揮しているかどうかについて、客観的かつ定量的に把握することができていない。

## 県総合社会教育センター

青森と自分の未来を“カタル”！「キャリアサポ」事業 1,305千円

**[事業目的及び概要]**

ふるさとに誇りをもち、主体的に行動できる若者を育成するため、研修によって、一定のスキルを身につけた大学生が高校生等と将来について語り合うワークショップを開催し双方のキャリア形成を図る事業である。

**[事業内容]**

(1) 大学生への研修会等の開催

研修名		概要等	参加大学生(回数)
基礎研修	基本研修	コミュニケーション、コーチング、ファシリテーション、青森の魅力に関する事項を学ぶ研修	122名(年間4回)
	ワークショップ演習	演習を通じ、気持ちや考えを引き出すための方法についての研修	
合同リハーサル研修		ワークショップ運営の一連の流れを確認し、企画のポイントなどを確認する研修(ワークショップ開催前に実施校ごとに行う)	165名(年間6回)
応用研修		ワークショップの企画・運営に必要なマネジメント力や運営ノウハウを学ぶ研修	16名(年間2回)
企画運営会議		企画運営委員(大学生の代表者)による、ワークショップの企画内容や運営についての意見交換	14名(年間4回)

(2) ワークショップの開催

ア 高校生対象ワークショップ

(ア)時期：夏季・・・8月下旬～9月下旬、冬季・・・1月下旬～3月下旬

(イ)対象：青森県内の高等学校7校

	月/日(曜)	実施校名	学年/人数	参加大学生
1	8/27(水)	県立大湊高等学校	1・2年生/198名	50
2	8/29(金)	県立五所川原工科高等学校	2年生 / 67名	25
3	9/ 5(金)	県立弘前南高等学校	1年生 / 187名	59

4	9/ 8(月)	柴田学園高等学校	1年生 /147名	48
5	9/10(水)	県立六ヶ所高等学校	1・2年生 / 64名	27
6	9/12(金)	県立黒石高等学校	1年生 /133名	39
7	2/20(金)	八戸工業大学第二高等学校	1年生 /164名	50

イ 中学生対象ワークショップ

(ア)時期：夏季・・・8月下旬～9月下旬

(イ)対象：中南、西北、三八の各教育事務所から推薦を受けた中学校3校

	月/日(曜)	実施校名	学年/人数	参加大学生
1	9/ 3(水)	藤崎町立藤崎中学校	3年生 / 60名	24
2	9/19(金)	五所川原市立五所川原第二中学校	1～3年生 / 50名	18
3	9/22(月)	階上町立道仏中学校	1～3年生 / 41名	18

[成果]

- ・ワークショップにおいてチーフを担当する企画運営委員の大学生に対し、前年度受講した応用研修の内容を振り返り、高校生等との関わり方やワークショップを行う学校の生徒の実情などについて正しく把握する機会を設けたことにより、ワークショップを担当する運営委員が「自分の思い」ではなく、各校における生徒の実情を鑑みながらワークシート等を作成することができた。
- ・参加した生徒の回答内容を確認すると、高校生等が大学生と語り合いながらワークショップに意欲的に参加するような記載内容が多くみられ、それぞれのキャリア形成の一助となった。
- ・中学校対象ワークショップは2年間のパイロット期間を経て、今後の在り方について方向性を得ることができた。

[課題]

- ・ワークショップにおいてチーフを担当する企画運営委員の中で、教育学部(教職課程履修者含む)の大学生と、その他の大学生とで、ワークショップを行う学校の生徒の実情の把握やワークショップの内容について差が見られることがあったため、学校によって内容に差が出ないようにする必要がある。
- ・県内6大学(弘前大、県立保健大、公立大、柴田大、青森大、明の星短大)から大学生が参加しているが、研修やワークショップの日程を組むにあたり、週休日や長期休業中に集中講義が組まれることが多くなったため、研修参加人数やワークショップの回数、また日程調整を再度見直したり、工夫したりする必要がある。

**高校生スキルアッププログラム推進事業 288千円**

[事業目的及び概要]

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

[事業内容]

- (1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営
  - ・参加校数 22校(参加人数 2,806名)
  - ・認定証 56件
  - ・奨励証 54件
- (2) 担当者説明会の実施
  - ・5/12(月)：オンライン開催
- (3) 評価サービス
  - ・計110件の評価を実施
- (4) 県民カレッジとの連携
  - ・県民カレッジ新規入学者数 746名

[成果]

- ・認定証と奨励証の交付者数が、目標としていた100件を超えることができた。
- ・学校外学修情報の提供(高校生スキルアップNEWS)が34件となり、昨年度の件数を上回ることができた。

### [課題]

- ・生徒が多様な社会活動に取り組み、知識や経験の幅をより広げられるよう、さらに多くの分野や地域をカバーできるような学校外学修情報の提供を継続する必要がある。
- ・申請に伴う作業負担を軽減するため、生徒や高校担当者にとってわかりやすく使いやすい内容となるよう、マニュアルや申請様式等の改善に引き続き取り組む必要がある。

## 地域に根ざしたキャリア教育推進事業 580 千円

### [事業目的及び概要]

企業・NPO・各種団体・地域住民等の関係者が、学校において行われるキャリア教育について相互に理解を深め、地域の子どもたちに郷土への愛着と誇りを持たせることを目的として、地域に根ざしたキャリア教育が推進されるための環境整備を進める事業である。

### [事業内容]

#### (1) 地域と学校をつなぐキャリア教育研修会

ア 期日・場所：東青地区 9/4(木) 外ヶ浜町立蟹田中学校  
上北地区 11/5(水) 十和田市立大深内中学校

イ 対象：企業・NPO・各種団体・地域住民(P T A含む)、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)等

※学校関係者(市町村教育委員会、近隣学校の教職員等)も参加可

ウ 参加者：東青地区 14名 上北地区 14名

#### (2) 地域に根ざしたキャリア教育推進フォーラム

ア 期日：10/24(金)

イ 場所：県総合社会教育センター

ウ 対象：企業・NPO・各種団体・地域住民(P T A含む)、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)等

エ 内容：開会(あおもりキャリア教育応援企業の表彰式あり)、講演、閉会行事、意見交換会

オ 講師：大正大学 地域創生学部 教授 牧野 篤

カ 参加者：74名

#### (3) 「我が社は学校教育サポーター」の運営全般

ア 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

(ア)登録企業から報告された令和6年度実績集計結果(令和8年2月調査まとめ)

出前授業：1,466件、職場見学827件、職場体験・インターンシップ992件、  
その他：298件

(イ)登録企業数：707社(令和8年3月現在)

イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録 11社

ウ 学校からの依頼に対する仲介 21件

### [成果]

- ・研修会、フォーラムにおいては、講義や意見交換を通じて、キャリア教育の意義や役割についての理解が深まった。
- ・キャリア教育支援に携わっている企業や地域住民の思いを共有することにより、多くの参加者が自分ごととしてキャリア教育推進のための関わり方について考える機会となった。
- ・県内の児童生徒に各企業の魅力を伝えるとともに、将来を見据えた人財の確保を目的として、「我が社は学校教育サポーター」に登録し、キャリア教育支援に協力したいという新規登録企業が増えた。

### [課題]

- ・研修会の効果的な実施方法について、課題を認識、共有し、協働体制を実現する研修の形を検討する必要がある。
- ・「我が社は学校教育サポーター」においては、令和5年度に、企業等自身がいつでも登録情報を変更できる新システムを構築したが、情報の更新に当たり、事務局からの依頼が必要になる場合も多く、新システムの運用について引き続き周知する必要がある。

## 重点(1) ウ こどもの読書活動の充実

### 県生涯学習課

こどもの読書活動推進事業 3,102 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

「青森県こども読書活動推進計画(第五次)」に基づき、「読書で広がる あおもりっこの未来」というキャッチフレーズの下、読書に親しみ、自主的に読書活動をするこどもたちを育てるため、不読率の低減、多様なこどもたちの読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備、こどもの視点に立った読書活動の推進に取り組む事業である。

#### 〔事業内容〕

#### (1) あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集(紹介文集)を 32,000 部、優秀作品周知ポスターを 360 部作成し、中学校・義務教育学校、高等学校(特別支援学校中学部及び高等部を含む)、図書館等に配布した。

○募集期間：7/1(火)～9/11(木)

○応募数：3,637 点(中学生の部：35 校 1,133 点、高校生の部：27 校 2,504 点)

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	八戸市立第二中学校 3年 加藤 優弥 「のび太」という生きかた (横山 泰行/著)
優秀賞	県立三本木高等学校附属中学校 3年 濱田 一花 赤毛のアン (モンゴメリ/著) むつ市立川内中学校 3年 福永 凷 鷹木信悟自伝 我道驀進 (鷹木 信悟/著) 階上町立道仏中学校 3年 村田 康汰郎 夏にいなくなる私と、17歳の君(いぬじゅん/著) 八戸市立第二中学校 3年 明戸 春樹 夢をかなえるゾウ1 (水野 敬也/著) 八戸市立下長中学校 2年 梅津 歩実 僕は上手にしゃべれない (椎野 直弥/著)

<高校生の部>

最優秀賞	県立青森工業高等学校 1年 小笠原 向春 ナミヤ雑貨店の奇蹟(東野 圭吾/著)
優秀賞	県立青森西高等学校 2年 熊沢 心桜 幸服論 人生は服で簡単に変えられる (MB/著) 県立五所川原農林高等学校 1年 山口 瑛蓮 死にたいけどトッポッキは食べたい (ペク・セヒ/著、山口 ミル/訳) 県立五所川原農林高等学校 1年 竹浪 望伶 津軽 (太宰 治/著) 県立七戸高等学校 3年 伊藤 詩愛 また、同じ夢を見ていた (住野 よる/著) 県立大湊高等学校 3年 太田 愛桜 か「」く「」し「」ご「」と「」 (住野 よる/著)

#### (2) こどもの読書活動推進大会の開催

広く県民がこどもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体でこどもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、こどもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/13(土) 13:00～16:00

○場所：HOCコネクト(八戸市)

○参加者数：110名

○内容

ア 表彰式

令和7年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』表彰式

①中学生の部の最優秀賞(1作品)及び優秀賞(5作品)受賞者の表彰

②高校生の部の最優秀賞(1作品)及び優秀賞(5作品)受賞者の表彰

イ 受賞者の本の紹介文説明

令和7年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』中学生及び高校生の最優秀賞及び優秀賞受賞者の紹介文説明、書籍編集者からのアドバイス

助言者 篠原 一朗(株式会社水鈴社代表取締役)

ウ 講演

演題『本が開いてくれるもの』

講師 瀬尾 まいこ(小説家)、進行 境 香織(フリーアナウンサー)

(3) 青森県こども読書活動推進計画

青森県こども読書活動推進計画(第五次)周知のためのチラシを作成するとともに、こどもの読書活動推進計画の未策定・未改定市町村について、計画策定・改定に向けた準備を行った。関係各所へ周知チラシを送付したほか、県教育委員会主催の各種イベントでチラシを配布することで、計画の周知を行った。

(4) 啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」第7版の増刷・提供

啓発小冊子第7版は、16団体合計2,399冊の提供を行い、市町村ブックスタート事業等に活用していただいたほか、親子ふれあい読書アドバイザー研修会やこどもの読書活動推進大会等でも配布・活用された。

[成果]

- ・「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」は、中学生の部・高校生の部ともに例年に近い応募があった。各校の担当教員からは「同世代の人の声を知らせ合うことで図書への関心が高まる取り組みで、今後も続けていってほしい」「生徒が本を読むきっかけにもなっている」などの好意的な意見が多く寄せられた。
- ・こどもの読書活動推進大会は、小説家による講演のほか、新たな取組として、あおもりの中学生・高校生による「大切なあなたへ薦める青春の一冊」受賞者の本の紹介文説明において、書籍編集者からの助言を取り入れた。参加者からは「紹介文に対する助言、トークを新しい試みとして入れたのはとてもよかった」などの意見があった。
- ・啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」については第7版を発行し、16の団体等に合計2,399冊の提供を行い市町村ブックスタート事業等で活用していただいた。

[課題]

- ・参加校からは好意的な意見を得ている一方で、参加校・作品数は横ばいとなっており、より広く中学校・高校の生徒・教員に対して周知する工夫が必要である。また、本事業を活用した中高生の不読率改善につながる取組を検討する必要がある。
- ・周知方法の工夫など大会の認知度の向上、大会内容の工夫・改善など、特に中高生の参加者増加を図るための方策を検討したい。
- ・「青森県こども読書活動推進計画(第五次)」の基本方針(不読率の低減等)に対応した取組をより一層進める必要がある。文部科学省による「市町村における子供読書活動推進計画の策定状況に関する調査」が本年度実施されたので、未策定・未改定市町村との連絡を密にし、策定率向上に向けて取り組む必要がある。

## 県立図書館

### こどもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

こどもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

**[事業内容]**

- (1) 市町村内巡回図書セット貸出サービス  
「朝の読書」活動や読み聞かせ等に使える図書をセットにし、市町村立図書館等を経由して、小・中学校、義務教育学校、幼稚園・保育所等に貸出する。
- (2) 学習支援セット貸出サービス  
調べ学習等に使える図書を32のテーマごとにセットにし、小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に貸出する。
- (3) ミニセット貸出サービス  
全国的なイベント等に対応した展示に使える図書をセットにし、市町村立図書館等(一部、高等学校・特別支援学校を含む。)に貸出する。

**[成果]**

図書セット内容		利用対象	配本先数	配本冊数
市町村内巡回図書 セット	小学校	低学年	81	2,600
		中学年	80	2,600
		高学年	79	2,600
	中学校	中学校	22	960
	読み聞かせ絵本 (児童書等)	幼稚園・保育所等	98	2,700
	大型絵本	幼稚園・保育所等	124	575
学習支援セット		小・中・高・特別 支援学校、市町村 立図書館等	11	895
ミニセット		市町村立図書館 等(一部、高校・ 特別支援学校を 含む。)	56	1,539

・各種図書セットの内容更新を図るなどしながら、一層利用してもらえるよう、会議や通知等により周知を図るとともに、貸出希望時期等が重なる場合は調整するなどして、より多くの市町村立図書館等や学校が利用できるようにしている。

**[課題]**

・引き続き各種図書セットの内容を一定数更新を図るとともに、図書セット利用時に提出される貸出事業実施報告書やアンケート等によりニーズを把握し、より利用しやすい読書環境づくり、市町村立図書館等や学校への支援を継続的に行い、利用促進、読書活動の推進につなげていく必要がある。

**重点(1) エ 家庭教育支援体制の充実**

**県生涯学習課**

**あおもり家庭教育支援総合事業 2,514千円**

**[事業目的及び概要]**

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育ができることを目的として、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく機運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

**[事業内容]**

- (1) 青森県家庭教育支援推進協議会の開催  
今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業(学習機会の提供や支援者の活動を推進する研修等)について協議した。
  - 委員構成：有識者、家庭教育支援者など 10名
  - 開催回数：年3回(第2回は書面開催)

## (2) 家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」の周知

家庭教育の学習を推進するため、「あおもり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育の学習テキストを作成する。また、「あおもり親楽プログラム」の活用促進を図るためのリーフレットを関係各所(1,243箇所)へ配布した。

## (3) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、市町村職員及び家庭教育支援関係者等のつながりを深める研修会を県内2地区で開催した。

地区	期日	場所	参加者数	内容
中南	9/4(木)	弘前市民会館	31名	講義・演習 「ペアレントトレーニングで学ぶ親と子の幸せなかかわり方」 講師 郡山家庭教育を支援する会 圓谷 円
下北	9/5(金)	むつ市立図書館	12名	

## (4) あおもり家庭教育応援フォーラムの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会及び様々な家庭教育支援に関する情報提供等を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

○期日：10/26(日)

○場所：アピオあおもり

○参加者数：会場参加56名、オンライン参加8名、オンデマンド申込42名

○講演：「すべての子どもに体験の機会を～体験格差の課題と解消に向けた取り組み～」

講師：(公社)チャンス・フォー・チルドレン 代表理事 今井 悠介

○パネルディスカッション：「地域の体験活動が支える家庭教育」

パネラー：(公社)チャンス・フォー・チルドレン 代表理事 今井 悠介

青森県PTA連合会 会長 棟方 丈博

五戸町家庭教育応援隊 代表 小宮 香

(一社)ミライク 代表理事 下山 翔大

モデレーター：教育ライター/(株)レゾンクリエイト 執行役員 佐藤 智

## (5) 地域の家庭支援を目指した多世代交流・参加型研修会

地域の子どもからシニアまでの多世代を対象とした、気軽に参加・交流できる生涯スポーツ的なレクリエーション体験等を通じ、地域の家庭支援の土台となる全世代の健康増進や交流・活性化に寄与する研修会を県内2地区で開催した。

地区	期日	場所	参加者数	内容
東青	10/25(土)	青森市立杉高児童館	45名	ユニカール
上北	11/15(土)	七戸中央公民館	45名	スカットボール

## (6) 読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内5地区で開催し、合計111名が受講した。

地区	期日	場所	参加者数	講師
西北	11/12(水)	板柳町多目的ホール あぶる	16名	親子ふれあい読書アドバイザー 蛭名 智子
中南	10/ 2(木)	平川市文化センター	33名	ニコニコこども園園長 對馬 大輔
上北	9/28(日)	十和田市民図書館	31名	語りの会「こま草」 菊池 佳子、阿部智留恵ほか2名
下北	9/20(土)	むつ市立図書館	4名	親子ふれあい読書アドバイザー 秋田 敏博
三八	10/29(水)	八戸市総合福祉会館	27名	JPIC 読書アドバイザー、柴田学園大学 短期大学部認定絵本士養成講座講師 高嶋 敬子

### [成果]

- ・家庭教育支援推進協議会では、家庭教育の今日的課題に対応するために、「あおもり家庭教育10か条」の内容を協議し、一部改訂することができた。
- ・家庭教育応援フォーラムは、地域が一体となって家庭教育を支援する意義や必要性について理解を深める機会となった。特に、登壇者の好事例紹介は、家庭教育支援関係者にとって、今後の活動運営の参考となった。
- ・多世代交流の機会は減少傾向にあることから、貴重な機会となったほか、婦人会と児童館等の連携体制が新たに構築された。

### [課題]

- ・研修会の実施時期や当日の日程、周知手段、メイン講師の選定等を検討しながら、より広く啓発する必要がある。
- ・各種研修会で新たに構築された参加者同士のつながりを維持できるよう、関係者へ働きかける必要がある。
- ・「あおもり親楽プログラム」の積極的な活用につながる周知の工夫が必要である。

## 県総合社会教育センター

家庭教育支援動画等制作普及事業 3,635千円

### [事業目的及び概要]

子育てについて気軽に学べる機会を増やすため、子育てに対する不安や悩みを解決する糸口となる情報を発信し、周知を図ることにより、家庭教育を支援する。

### [事業内容及び結果]

- (1) 家庭教育支援をPRするキャラクターデザイン等の制作
  - ア キャラクター名 シャメルン、もりのん
  - イ デザインパターン 基本パターン(3種類)、応用パターン(6種類)等
- (2) PR動画制作  
キャラクターを使用した「あおもり子育てネット」CM動画を制作
- (3) 生涯学習フェアにおけるブース展開
  - ア 開催日時 9/27(土)10:00~15:00
  - イ 内容 フォトスポット、お絵かきバルーン、防災コーナー、VR体験、パネル展示、読み聞かせコーナー、クイズ等
- (4) 広報業務
  - ア CM放映
    - (ア) 放映期間 1/5(月)~2/28(土)
    - (イ) 本数 20本
  - イ ノベルティ(ポケットティッシュ)の製作・送付
    - (ア) 制作数 12,000個
    - (イ) 送付先 県内小児科医院41箇所
    - (ウ) その他 当センター主催講座や派遣等において配布

### [成果]

- ・親しみやすいキャラクターが完成したことにより、家庭教育がより身近なものとして捉えやすくなり、新規の「あおもり子育てネット」利用者が増えた。

### [課題]

- ・生涯学習フェアにて家庭教育支援の普及に係るブースを設けたが、県内の大規模なイベントを重ねたことで来場者数が少なかった。開催日時や場所においては、様々な動向を鑑みて設定する必要がある。

家庭教育相談事業 681千円

### [事業目的及び概要]

子育て中の不安や悩みを軽減するため、乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う。

**[事業内容]**

- (1) 対象：乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族
- (2) 実施方法：電話相談・週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～15:00  
メール相談・24時間受付
- (3) 場所：県総合社会教育センター電話相談室
- (4) 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などのこどもに対する悩みや家庭教育全般について
- (5) 相談体制：家庭教育相談員が対応
- (6) 相談件数：19件(電話相談16件、メール相談3件)

**[成果]**

- ・相談者の悩みに対し、寄り添いながら冷静に対応することができた。
- ・家庭教育関連の相談機関との情報交換を行ったことで、より連携しやすくなった。
- ・講師を招いて研修会を実施したことで、より専門的な知識を得ることができ、相談員の資質向上につながる研修会となった。

**[課題]**

- ・相談内容が複雑化・深刻化しているため、より相談員の資質向上の研修や専門機関への接続等が求められる。
- ・「あおもり子育てネット」の周知活動が必要である。

**あおもり家庭教育力向上事業 729千円**

**[事業目的及び概要]**

地域における家庭教育支援体制を整備するため、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催し、子育てを応援する人材を育成・活用する。

**[事業内容及び結果]**

- (1) あおもり家庭教育アドバイザー養成講座
  - ア 場所：県内2地区(西北地区/三八地区)
  - イ 定員：各30名
  - ウ 対象：家庭教育支援者を目指す人及び活動中の人、家庭教育支援に関心のある人、市町村の家庭教育担当者等
  - エ 内容：今日的な家庭教育支援の現状について、講義・演習形式で学ぶ。

回	期日・地区	内容・講師
1	6/12(木)・三八	オリエンテーション 講義「家庭教育支援者の役割・心構え」 特定非営利活動法人 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子
	6/17(金)・西北	
2	7/10(木)・西北	講義「子どもの気持ちを理解するために」 八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 教授 差波 直樹 演習「あおもり親楽プログラムⅠ」 県総合社会教育センター 職員
	7/16(水)・三八	
3	8/20(水)・三八	講義・演習 家庭教育支援チーム・子育て支援団体等見学 三八地区 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット こどもはっち 代表 平間 恵美 西北地区 学校法人平田学園 認定こども園 育実幼稚園 理事長 平田 昌子
	8/27(水)・西北	
4	9/12(金)・西北	講義「気になる子どもの理解と対応」 青森県発達障がい者支援センターDoors センター長 分枝 篤史 演習「あおもり親楽プログラムⅡ」 県総合社会教育センター 職員
	9/18(木)・三八	
5	10/15(水)・三八	講義「今、親が悩むこと～親子のコミュニケーション～」 岩手大学人文社会科学部 准教授 萩臺 美紀 演習「あおもり親楽プログラムⅢ」 県総合社会教育センター 職員
	10/31(金)・西北	

7年度事業の実績

6	11/12(水)・三八	演習「あおもり親楽プログラムⅣ」 県総合社会教育センター 職員
	11/19(水)・西北	

実施地区	西北	三八
会場	つがる市生涯学習交流センター 松の館	八戸市総合教育センター
開催回数	全6回(6月～11月の月1回)	全6回(6月～11月の月1回)
受講者数	21名(のべ62名)	31名(のべ128名)
うち新規登録者数	9名	17名

(2) あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ研修

- ア 期日：9/28(日) 10:00～12:15  
 イ 対象：あおもり家庭教育アドバイザー  
 ウ 会場：県総合社会教育センター  
 エ 内容：講義・演習

内容	講義 「青森県の家庭教育の現状と展望」 県総合社会教育センター教育活動支援課長
	演習Ⅰ あおもり親楽プログラムⅠ あおもり家庭教育アドバイザー
	演習Ⅱ あおもり親楽プログラムⅡ 県総合社会教育センター職員
受講者数	9名

(3) あおもり家庭教育アドバイザーの活用

- ア アドバイザー登録情報の管理  
 イ アドバイザー派遣

派遣回数	14回
派遣のべ人数	のべ34名
主な派遣先	・青森県PTA研究大会西北五つ大会 ・蓬田村教育委員会(家庭教育学級) ・弘前市立船沢小学校 参観日(家庭教育学級) ・生涯学習フェア など

[成果]

- ・令和7年度の新規登録者数は26名であり、昨年度のおよそ2倍に増加した。
- ・アンケートから、講義内容についての満足度が高く、今後の活動に活かそうとする意識の醸成につながった。
- ・今年度派遣したアドバイザーの実人数は26人であり、そのうちの11人が初めての派遣となった。新たな人材の発掘につなげることができた。

[課題]

- ・より多くの家庭教育支援者へ講座案内が行き届くように、教育委員会の他、知事部局及び放課後児童クラブ等にも働きかけ、周知していく必要がある。
- ・アドバイザーの実践意欲を高めるために、登録後の活動の充実を図る必要がある。
- ・少人数から100人規模等の幅広い研修会への依頼があるため、よりアドバイザーの資質向上が求められる。

## 重点(1) オ こどもの体験活動の充実

### 県立梵珠少年自然の家

県立梵珠少年自然の家主催事業 1,805 千円

#### (1) 看板事業

##### [事業目的及び概要]

小・中・義務教育学校の児童生徒の幅広い年代の「こども」を対象に、豊かな自然環境の中で行うキャンプ・野外炊事などの様々な自然体験活動を通して、基本的な生活習慣や仲間と協力しようとする態度を育てていく事業である。

##### [事業内容]

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
9歳アドベンチャーキャンプ①～ひとりできるぞ～	7/12(土)～ 7/13(日)	小学 3年～4年、 義務教育学校 3年～4年の 児童	35名	野外活動(アドベンチャーゲームほか)、たき火体験(梵ファイヤー)野外炊事、思い出クラフト、館内シュラフ泊
夏のチャレンジキャンプ～山に！川に！真夏の挑戦2025～	8/7(木)～ 8/10(日)	小学5年～ 中学3年、 義務教育学校 5年～9年の 児童生徒	36名	野外活動(登山、ラフティング、梵ファイヤーほか)、施設見学(津軽ダムほか)、野外炊事、食材買い出し、思い出クラフト、館内泊
9歳アドベンチャーキャンプ②～ひとりできるぞ～	10/11(土)～ 10/12(日)	小学 3年～4年、 義務教育学校 3年～4年の 児童	36名	野外活動(アドベンチャーゲームほか)、たき火体験(梵ファイヤー)野外炊事、思い出クラフト、館内シュラフ泊
冬の3daysキャンプ～かまくら基地をつくって冬を楽しもう～	1/9(金)～ 1/11(日)	小学4年～ 中学2年、 義務教育学校 4年～8年の 児童生徒	30名	かまくら基地作り、野外活動(チューブそり、スノーシューハイク)、屋内活動(館内ビンゴゲーム)、炊事体験、思い出クラフト、館内泊
7歳わんぱくキャンプ～寒さに負けないぼんじゅキッズの冬遊び～	2/14(土)～ 2/15(日)	小学 1年～2年、 義務教育学校 1年～2年の 児童	24名	スノーランド作り・遊び、雪上ミニ運動会、炊事体験、思い出クラフト、館内泊

##### [成果]

- ・関係スタッフ(自然の家職員、ボランティアスタッフ、救護員、救護補助員)が連携し参加者の体調管理に当たったことで事故や怪我等もなく、天候等によるプログラムの変更はあったものの、概ね計画どおりの事業を実施することができた。
- ・昨年度の反省等を生かし、活動プログラムや内容などを見直した上で実施したことにより、参加者の満足度を高めることができた。

##### [課題]

- ・配慮が必要な参加者に対する共通理解が図れるように、職員やボランティアスタッフからの聞き取りを行い、ミーティング時に支援体制を確認する。
- ・9歳アドベンチャーキャンプについては、1泊2日の日程の中で困難な中にもある程度の達成感を得られるようなプログラム構成についても検討していく必要がある。

## (2) 養成事業

### [事業目的及び概要]

当施設利用団体の引率者や高校生・大学生などを対象に、豊かな自然環境の中で行う活動プログラムや自然体験活動を安心・安全に実施するための研修やセミナー、講座等の開催を通して、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

### [事業内容]

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
施設利用団体事前打合せ研修	(全体会) 4/15(火) (個別研修会) 利用日の 14日前まで に実施	令和7年度 利用予定団 体の引率者	(全体会) 45名	(全体会) 講義、説明、活動プログラム体験 (野外活動、屋内活動、創作活動)
自然体験活動 ぼんじゅボランティア セミナー  (1)入門(必修) (2)春を楽しむサン day (3)ファミリーS キャンプ (4)9歳アドベンチャーC① (5)ネイチャークラブ① (6)夏のチャレンジキャンプ (7)ネイチャークラブ② (8)9歳アドベンチャーC② (9)ぼんじゅフェスタ (10)ネイチャークラブ③ (11)クラフト day (12)ウィンタースクール (13)冬の3days キャンプ (14)ホワイト day (15)7歳わんぱくキャンプ (16)ふりかえり(任意)	実施日は各 事業を参照  (1) 5/10(土) (16)3/ 7(土)	高校生及び 大学生	(1) 60名 (2) 8名 (3) 5名 (4) 16名 (5) 4名 (6) 11名 (7) 4名 (8) 15名 (9) 16名 (10) 4名 (11) 6名 (12) 1名 (13)16名 (14) 8名 (15)13名 (16)24名	(1)の「ボランティア入門セミナー」は必修として受講した後、看板事業、親子事業、学習・生活習慣支援事業の全14事業の中から1つ以上を選択して受講する。なお、(16)の「ボランティアふりかえりセミナー」は任意参加とする。 セミナー受講者は、事業参加1日につき1単位を付与し、計7単位以上を取得した者は「マスターボランティア」、計30単位以上を取得した者は「レジェンドボランティア」として認定する。実践レポート提出にも1単位を付与する。 令和7年度 マスターボランティア 5名 レジェンドボランティア 1名
ぼんじゅ出前講座	通年実施 【各回即日】 ※直接指導は 11月～3月 のみ 通年、間接指 導に対応	小・中・義 務教育学 校、各種学 校、青少年 教育団体、 幼児施設等	2,750名	対象の団体が開催する各種行事(事業)において、直接指導又は間接指導を行う。 なお、派遣職員の旅費は無料とし、活動材料費や用具運搬費は団体の負担とする。

### [成果]

- ・「施設利用団体事前打合せ研修」は、9割の参加者が研修会の内容に対し、満足した内容であったと回答しており、参加者は施設利用の仕方や活動プログラムについて理解を深め、日課表の作成や利用に関する手続き等を手順を追って理解することができた。
- ・「自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー」は、8割を超える登録学生が必修以外のセミナーに参加したことで、参加した学生は野外活動に関する基礎的な知識や技能を身に付けることができた。
- ・「ぼんじゅ出前講座」では、親子レクやPTAが主催のイベント活動など、多くの人が参集する場面での利用が増えたことにより、昨年度並みの利用者数となった。

**[課題]**

・「自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー」では、登録者の学校での試験期間と事業日が重なることなどがあり、予定のボランティアスタッフ数に満たない事業もあったことから、別途、近隣の高等学校にボランティアを依頼するなど、対応策を検討しておく必要がある。

**(3) 親子事業**

**[事業目的及び概要]**

小・中・義務教育学校の児童生徒を含む保護者とその家族、いわゆる「親子」を対象に、豊かな自然環境の中で行う自然に親しむための体験活動や創作活動などを通して、家族のふれあいや絆を深める機会を提供する事業である。

**[事業内容]**

事業名	期日	対象	参加者数	内容
春を楽しむサン day	4/26(土)	小・中・義務教育学校の児童生徒を含む保護者とその家族	77名 (21 家族)	野外活動(春の自然観察)、野外炊事(ホットサンド)、創作活動(ブンブンごま)
ファミリー スプリングキャンプ	5/24(土)～ 5/25(日)		66名 (20 家族)	テント設営、野外炊事(ダッチオープン・ホットサンドメーカー料理)、火起こし&たき火体験、野外活動(自然散策、ディスクゴルフ等)館内テント泊
自然体験 ぼんじゅフェスタ	10/26(日)		95名 (27 家族)	野外炊事体験(ダッチオープン、ホットサンド、南部せんべい焼き、棒パン焼きなど)、遊びリンピック、創作活動体験(本格リース作り、創作活動プログラム)、館内食体験、セルフカフェ
冬をいろどるクラフト day	12/6(土)		94名 (26 家族)	クラフト①「ミニ門松」、クラフト②「ぼんじゅ絵馬」、クラフト③「クリスマスきになる木」、クラフト④「バンブーランタン」から選択し、制作
冬を楽しむホワイトday	1/31(土)		41名 (10 家族)	野外活動①(ミニ雪灯籠作り、スノーシューハイキング、雪上ミニ運動会から選択)、館内食体験、野外活動②(チューブそり遊び、スノーランド遊びなど自由活動)

**[成果]**

- ・昨年度の反省等を生かし、活動プログラムや内容などを見直した上で実施したことにより、参加者の満足度を高めることができた。
- ・ボランティアスタッフが明るく親切に接してくれたことで、活動プログラムをとおして、親子の絆や仲間との交流を深める機会を提供することができた。

**[課題]**

- ・親子事業(5 事業)は、昨年度より参加者数が減少傾向だったため、リピーター参加者以外の新規参加者増に向けた周知活動について検討する。
- ・毎年リピートしてくれる参加者のためにも、新規のクラフトや活動プログラムの開発が必要不可欠である。

#### (4) 学習・生活習慣支援事業

##### [事業目的及び概要]

小・中・義務教育学校の児童生徒の「こども」を対象に、豊かな自然環境の中での体験活動を行いながら主体的に学んだり、規則正しい生活を送ったりする活動を通して、その後の学校・家庭生活に役立てていこうとする基礎的態度を育てていく事業である。

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
ぼんじゅネイチャー クラブ	① 7/26(土) ② 8/30(土) ③ 11/ 8(土)	小学 3年～6年、 義務教育学校 3年～6年の 児童	① 12名 ② 15名 ③ 12名	① 昆虫採集と観察 ② 水生生物の採集と観察 ③ 秋の自然観察、リース作り
ぼんじゅウィンター スクール	12/23(火)～ 12/25(木)	小学4年～ 中学2年、 義務教育学校 4年～8年の 児童生徒	15名	学習タイム、館内食、歯みがき タイム、自由研究(凝固点降下 実験、アイス作りなど)、野外 観察(フィールドワーク、雪の 結晶観察など)、リフレッシュ タイム、清掃活動、館内泊など

##### [成果]

- ・「ぼんじゅネイチャークラブ」は、参加者が直接、自然の中から学ぶ楽しさを実感できる事業内容を提供することを目的に、今年度は昨年度の年2回実施から3回に増やして実施したことで、参加者数が増加した。
- ・「ぼんじゅウィンタースクール」では、事業内容を見直し、野外観察や自由研究を取り入れたことが参加者からも好評であった。また、今年度も事業に対応する研修課職員をシフト制としたことにより、職員の負担軽減につなげることができた。

##### [課題]

- ・「ぼんじゅネイチャークラブ」は、参加者の参加意欲喚起のため、参加回数に応じた「ぼんじゅネイチャーマスター」(仮称)等の称号について検討する。
- ・実験要素のある内容が参加者から好評だったため、引き続き、調べ学習や野外観察等の活動も検討していく。

## 県立種差少年自然の家

県立種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、こどもの祭典) 1,793千円

##### [事業目的及び概要]

年長児・小・中・義務教育学校の児童生徒が自然の中で家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましいこどもを育てることを目的として、種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などの学習機会の提供をする事業である。

## 〔事業内容〕

### (1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/11(日)	年長児・ 小・中・義 務教育学校 の児童生徒 とその保護 者	103名	春の自然を楽しもう ・潮風トレイルウォーク、創作活動 他
たねさしワールド 「エンジョイ! 海遊び」①②③④ ※4回開催	6/28(土)		129名	海で思いっきり遊ぼう ・いかだやカヌー遊び、サンドクラフト、 磯遊び 他
	6/29(日)		133名	
	9/ 6(土)		124名	
	9/ 7(日)		98名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/19(日)		43名	秋の自然を楽しもう ・秋の森オリエンテーリング、 ニュースポーツ、松かさけん玉
たねさしワールド 「冬の季節を感じ て」 ※2回開催	12/ 6(土)		53名	正月飾りをつくろう ・ミニ門松づくり
	12/ 7(日)		65名	
たねさしワールド 「エンジョイ! 雪遊び」①② ※2回開催	1/31(土)	4歳以上の 幼保・小・ 中・義務教 育学校の児 童生徒とそ の保護者	119名	冬の自然を楽しもう ・スノーチューブすべり、そりすべり、 南部せんべい焼き、たこ揚げ 他
	2/ 1(日)		117名	
たねさしワールド 「こども大作戦」 ①② ※2回開催	2/21(土) ～22(日)	小・義務教 育学校 3年～4年	114名 (各日57名)	こどもだけでとまってみよう ・キャンドルスタンドづくり、夜のネイ チャーゲーム、ツリークライミング、 ラワンロケットづくり、ビンゴだ!ゲ ーム
	3/7(土) ～8(日)		118名 (各日59名)	

### (2) こどもの祭典

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
おいでよ! サマーキャンプA	7/26(日) ～27(水)	小学5年～ 中学3年、 義務教育学 校5～9年	66名 (各日33名)	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・キャンプファイヤー ・海遊び(いかだ遊び、カニ釣り) ・火おこし体験
おいでよ! サマーキャンプB	8/9(土) ～10(日)		68名 (各日34名)	
わくわくどきどき ウインターキャン プ	12/24(水) ～26(金)		87名 (各日29名)	

## 〔成果〕

- ・「自然と遊ぼう」「こどもの祭典」の各事業において、前年度の参加者、職員、ボランティアのアンケートをもとに、活動プログラムや運営を見直して計画したので、種差の自然の中で年少児、大人、高齢者まで楽しめるものとなっている。
- ・特に、「エンジョイ!海遊び」「エンジョイ!雪遊び」の事業において、定員以上の応募があり、ふだん家庭ではできない活動に興味と関心をもっていることがうかがわれる。
- ・「こどもの祭典」の事業において、中学生やリピーターが多く参加したため、野外炊事等の各活動において、率先して班をまとめて実施しており、活気と協力関係が生まれ、交流の輪が深まった。

**【課題】**

- ・事業においては定員を下回るものもあり、このことは、学校関係等のイベントと重なっていること、活動内容に興味や関心がなかったことも考えられるので、開催予定日と活動内容を吟味することが必要である。
- ・「わくわくどきどき！ウインターキャンプ」では、クマの出没情報があったので、急きょ館内にテントを設置して安全確保をしたが、今後、熊等の有害動物の出没には十分留意し、安全確保に努めていきたい。
- ・「こども大作戦」の事業では、特別支援学級に入っている子、常備薬を服用している子、多動的な子などさまざまな子がおり、保護者との連絡を密にしながら、指導員や元養護教諭、ボランティアと情報共有をしながら活動を進めていかなければならない。

**自然体験活動支援事業 126 千円**

**【事業目的及び概要】**

学校や公民館、児童館、放課後児童クラブなどの身近な施設内外の活動場所で、こどもたちに自然体験活動やニュースポーツ活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の実地支援を行う。また、自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小・中学校等の教職員及び青少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

**【事業内容】**

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10～3月	三八、上北管内の 小・中・義務教育 学校、児童館、公 民館、放課後児童 クラブ、青少年団 体や成人団体 等	181 団体 12,829名	・種差少年自然の家のプログラムの中 で出前対応可能なもの (せんべい焼き、フォトフレーム、ど んぐりアート、たねさし芝っこぞう、 たねさし万華鏡、ミニ門松 他)
自然体験活動 研修会	5/24(土) ～25(日)	幼保・小・中・義 務教育学校教員、 高校・大学生、児 童館など関係機関 の指導者、その他 自然体験活動に興 味のある方	48 名 (各日24名)	・レクリエーション ・砂鉄ストラップ ・ニュースポーツ ・ちょうちんづくり ・野外炊事 ・ランタンづくり ・避難、救助訓練 ・AED操作法

**【成果】**

- ・自然体験活動出前講座では、小学校を中心に保育園、幼稚園、特別支援学校、放課後児童クラブ、児童館、公民館など多岐にわたって依頼があり、団体数も増加している。
- ・主な活動プログラムでは、「せんべい焼き」「たねさしアロマアート」「たねさし万華鏡」「ミニしめ飾り」「ミニ門松」「ニュースポーツ」「昔遊び」など、各団体独自ではできない活動の依頼が多かった。
- ・自然体験活動研修会では、在学少年宿泊指導者研修に参加できなかった教員、中堅教諭資質向上研修の受講者の参加があり、学校や学級でも活用できる体験活動など、学びのある充実した研修会となった。

**【課題】**

- ・自然体験出前講座は、土・日曜日、祝日に集中することが多く、調整をすることが多かった。
- ・ニュースポーツや昔遊び、活動プログラムの教材等の貸出しが増えてきており、今後とも周知していきたい。
- ・自然体験活動研修会の参加者は学校関係者が多いので、保育士や幼稚園の教諭、大学生等に広く呼びかけていきたい。

**在学少年宿泊指導者研修****【事業目的及び概要】**

種差少年自然の家を利用する小・中学校・義務教育学校及び特別支援学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

- 期日：4/24(木)～25(金)
- 場所：種差少年自然の家
- 対象：56名の参加

**【事業内容】**

- 講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方
- 実習：活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法
- 演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認事項

**【成果】**

- ・今年度参加者数は56名で、学校事情により部分参加となったところもあったが、それぞれの事情等をふまえて丁寧に対応することができた。
- ・海活動での「いかだ遊び」「磯遊び」、地震や津波等における海岸での避難場所と経路などの確認ができた。
- ・館内で活動している際の地震や火災等における「避難訓練」を通して、避難の仕方や経路などの確認ができた。

**【課題】**

- ・参加者から「校内事情から1日行事にしてほしい。」との願いがあるものの、宿泊学習はこどもの健康・安全に関わる重大なことなので、了承を得るようにしたい。
- ・同一利用校同士の擦り合わせ等に時間がかかるので、指導員を増やして対応したい。
- ・宿泊学習の担当者が参加しない場合が多いので、参加できるように学校側をお願いしていきたい。

**親子で学ぶ防災キャンプ事業 138千円****【事業目的及び概要】**

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害時における実践的な防災力・減災力を育むことを目的として、小・中・義務教育学校の児童生徒とその家族及び小・中・義務教育学校の教員を対象に行う研修事業である。

**【事業内容】**

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
親子の絆 「防災キャンプ」	9/27(土) ～28(日)	小・義務教育学校3年生以上と保護者、防災に関心のある方	86名 (各日43名)	親子キャンプで防災力、減災力を身に付けよう ・避難所体験 ・非常食の炊事体験 ・AED講習 ・防災グッズ作り 他

**【成果】**

- ・防災講話として、根城指導員(防災士)が「もしも避難所で生活することになったら」の演題の中で、東日本大震災や日本列島で地震が頻発した動画等を提示したため、より防災に関する知識・理解が深まった。
- ・「火おこし」の体験は、こどもはもとより保護者も夢中に取り組み大変好評であった。
- ・参加者のアンケートに、「避難所のイメージが具体的に分かる活動があって良かった。」などの感想があり、好評だった。

**【課題】**

- ・3年生以上の参加をよびかけているものの、家族の中には小さいお子さんもいるので、全員で楽しめる活動ができるように工夫していきたい。
- ・本施設の職員が防災士の資格をもつことにより、活動内容が深まると思われる。
- ・高齢者のいる家族の参加をよびかけ、避難行動などの実体験をさせていきたい。

## 重点(2) 地域の強みを生かした地域づくりを担う人財の育成

### ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成

#### 県総合社会教育センター

パワフルAOMORI! 創造塾 581 千円

##### [事業目的及び概要]

地域活動に係る潜在的な人財を掘り起こし、地域を担う人財を育成するとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的として、講義・演習や企画・運営をする事業である。

##### [事業内容]

##### (1) 講座内容

回	期日	内容
1	7/19 (土)	【開講式、オリエンテーション】 【講義・演習】 「地域活動って何?～そして自分の出来ること～」 講師 NPO法人 ACTY 理事長 株式会社ACプロモート 代表取締役 町田 直子
2	8/23 (土)	【フィールドワーク・演習】 「もったいないから未来をつくる」 講師 一般社団法人もったいない研究所 代表理事 岡 詩子
3	9/27 (土)	【講義・演習】 「『ついやってしまう』地域活動のつくりかた」 講師 わかる事務所 代表 玉樹 真一郎 【交流会】 「パワフル交流会」
4	10/18 (土)	【フィールドワーク・演習】 「理想と現実のギャップを乗り越えて見えるもの、そしてその先にあるもの」 講師 町田 直子
5	11/8 (土)	【演習】 「アクションプラン発表会に向けて」 【講義・演習】 「好きな場所で暮らす～今の活動を生業にするためのヒント～」 講師 株式会社 and more 代表取締役 久慈 美穂
6	12/6 (土)	【発表】 「アクションプラン発表会」 講師 町田 直子 【閉講式】

##### (2) 場所

県総合社会教育センター、TSURUTA LABO(第2回講座)、種差海岸(第4回講座)

##### (3) 参加者

塾生 16 名

内訳：(年代別) 10代2名、20代4名、30代3名、40代5名、50代1名、60代1名

(地域別) 東青地域5名、西北地域4名、中南地域3名、上北地域2名、下北地域1名、  
三八地域1名

(職種別) 公務員3名、会社員・自営業6名、学生4名、地域おこし協力隊2名、  
その他(主婦等)1名

**[成果]**

- ・幅広い年代、各地域、様々な職種の参加によって、地域活動に係る潜在的な人財を掘り起こし、人材相互のネットワーク形成を促進することができた。
- ・講義・演習に加え、地域活動実践者と交流したり、活動に参加したりするフィールドワーク(地域活動の現場訪問)を行うことによって、地域活動に多様な側面から関わる人財を育成することができた。

**[課題]**

- ・アクションプラン作成に向けて内省したり相談したりする時間が不足していたため、時間配分や事業設計を見直す必要がある。
- ・一方的な講義の時間が多く、塾生と講師で対話する時間が不足していたため、双方向から多様な意見や知識の共有を行う場の設定が必要である。

**社会教育プレ団体サポート事業**

**[事業目的及び概要]**

若者の自主的、主体的な社会参加活動を促進することを目的として、社会参加活動を行うに当たり、支援を要する若者主体の「社会教育プレ団体」として認定し、活動を支援することにより、団体の自立的、持続的活動につなげる事業である。

**[事業内容]**

(1)活動の支援

	事業内容	支援回数
ア	団体の認定	1 (学生団体 レスタ)
イ	青森県総合社会教育センター(以下「センターという。’)条例別表に掲げる施設を使用する場合の使用料の減免	1
ウ	団体が事業等を開催する場合の、当センターの協力名義の使用承認	2
エ	センター関連事業(生涯学習フェア等)における発表機会の提供	0
オ	センターの各種媒体による広報	0
カ	センター職員(社会教育主事等)による指導・助言	0
キ	センターが主宰する研修講座、事業等の情報提供	0
ク	認定団体による情報交換・交流会の開催	0

**[成果]**

- ・社会教育プレ団体として認定した団体について、当センターが支援した活動においては、滞りなく実施された。申請書類等の不備や提出日の遅れは見られたが、指導後は早急に提出された。

**[課題]**

- ・認定した団体が1団体と少なかったため、支援を要する若者主体の社会教育団体や人材の情報を収集しつつ、当事業参加へのアピールを強めていく必要がある。

**重点(2) イ 郷土に誇りを持ち、地域の次代を担う若者の育成**

**県生涯学習課**

**若者の社会参加促進事業 688 千円**

**[事業目的及び概要]**

不登校が続いている高校生や、ひきこもり・ニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、ボランティア・就労体験や自然体験活動を実施する事業である。

**[事業内容]**

不登校が続いている高校生や、ひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自然体験・交流塾を、種差少年自然の家と

梵珠少年自然の家にて実施した。

(1) 自然体験・交流塾

ア 第1回【体験活動を通じた交流会】

- 期日：[梵珠会場] 7/5(土) 9名 [種差会場] 7/19(土) 30名
- 場所：県立梵珠少年自然の家、県立種差少年自然の家
- 内容：野外炊事、創作活動 等

イ 第2回【自然体験活動】

- 期日：[梵珠会場] 9/6(土) 開催中止 [種差会場] 9/20(土) 29名
- 場所：県立梵珠少年自然の家、県立種差少年自然の家
- 内容：自然体験活動、創作活動 等

ウ 第3回【ボランティア・就労体験】

- 期日：[梵珠会場] 1/24(土) 2名 [種差会場] 2/14(土) 20名
- 場所：県立梵珠少年自然の家、県立種差少年自然の家
- 内容：ボランティア・就労体験、創作活動 等

(2) 自然体験・交流塾協力団体等連絡会議

会場ごとに、第1回自然体験・交流塾開催前と第3回自然体験・交流塾終了後、支援団体等により参加者の情報共有をするとともに、成果と課題、活動内容等について話し合う。

【成果】

- ・参加者同士やボランティアとの交流を通じて、参加者の前向きな気持ちが引き出され、参加後に生活や進学や就労に良い変化につながった参加者が多かった。
- ・協力団体やボランティア、自然の家と適切に情報交換を行うことにより、本事業に対する理解や支援体制の強化が図られた。

【課題】

- ・本事業による支援が必要な県民に一人でも多く参加してもらうために、新規協力団体を開拓し、本事業の良さを直接周知していく必要がある。

## 県総合社会教育センター

青森で生きる未来人財育成事業(高校生地域活動促進事業) 657千円

【事業目的及び概要】

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を県内各地で行われる地域活動に派遣する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) オンライン講座の実施

異年齢交流等の多様な体験活動実施のため、様々なボランティア活動について扱う講座を実施。なお、講義は事前収録し、オンライン配信する。

	内容・講師
1	テーマ：「ボランティア活動」 日本赤十字社青森県支部 事業推進課 主事 岩井 雄太郎
2	テーマ：「ボランティア活動の実際」 弘前大学人文社会科学部 教授 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長 李 永俊

(2) 対面講座の実施

高校生同士のネットワーク形成や地域における実践活動の体験のため、当該地区及び近隣地区の高校生を対象に、県内3地区において講座を実施。2年で全6地区を一巡する。

	実施日時	場所	内容・講師	受講者数
1	7/13(日) 10:00~12:00	五所川原市 地域福祉セ ンター	テーマ：「子育て支援ボランティア」 Family cafe あづま〜る 代表 藤林 秀	11名
2	7/19(土) 10:00~12:00	弘前市運動 公園陸上競 技場	テーマ：「スポーツボランティア」 株式会社ブランデュー弘前 代表取締役 西澤 雄貴	7名

3	7/26(土) 10:00~12:00	コミュニティカ フェ ハピたのかふえ	テーマ:「地域とともにほぐくむボランティア活動」 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子	8名
---	------------------------	--------------------------	--	----

(3) 地域活動への派遣

ア 対象:市町村及びボランティア団体等

イ 内容:多様な地域活動(学習支援、レクリエーション、イベント補助、異年齢交流等の体験活動等)

ウ ボランティア名簿登録者数及び主な派遣先

(令和7年度登録者の居住地)

[単位:名]

青森市	五所川原市	つがる市	鶴田町	弘前市	平川市	黒石市
15	6	2	1	10	1	1
十和田市	三沢市	六戸町	七戸町	むつ市	八戸市	五戸町
5	3	2	1	4	6	1
おいらせ町	岩手県二戸市	〔計 16 市町村〕				
1	1					

団体名	活動名及び活動内容	回数/人数
平川市教育委員会	平川市こっこつ教室/小中学生への学習支援	1/1
弘前市教育委員会 弘前市立中央公民館	外国人留学生から直接聞ける世界のおはなし/会場設営・撤去、運営補助	1/1
十和田市健康福祉部 生活福祉課	医療的ケア児交流会 とわだステップ/ステージ発表やブースの運営補助	1/1
NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ	2025年すてっぷ子ども教室/小学生の活動支援	1/1
青森スポーツクリエイション株式会社	青森ワッツホームゲーム/会場設営・撤去、競技運営	3/4
株式会社ラインメール青森フットボールクラブ	ラインメール青森ホームゲーム/会場設営・撤去、競技運営	2/3
株式会社ブランデュー弘前	ブランデュー弘前ホームゲーム/会場設営・撤去、競技運営	1/1

[成果]

- ・ これまでは地域活動への派遣に係る条件として、講座の受講を位置付けていたが、条件を撤廃し、名簿への登録により、オンライン講座や対面講座の受講、地域活動への派遣のすべてを可能にしたことで、新規登録者数が前年度より14名増加した。
- ・ 対面講座の実施により、講義の受講と同時に実践活動を体験できる機会を提供できた。また、職員と受講者、及び受講者同士のつながりができ、その後の地域活動への参加につなげることができた。対面講座及び地域活動への参加者はのべ38名で、前年度より13名の増加につながった。

[課題]

- ・ 高校生の講座受講には保護者の送迎が必要となる場合も多いため、県が会場までの移動手段を手配する等、今後も検討が必要である。
- ・ 新たな地域活動受入団体が増えたものの、提供できる活動数や内容に地域差があったため、各市町村教育委員会やNPO活動支援担当課等との連携を深めるとともに、ネットワークの拡大を目指す必要がある。

## 重点(3) 人生100年時代の学び直しや生涯学習の推進

### ア 県民の学び直しやリカレント教育の推進

#### 県総合社会教育センター

#### あおもり県民カレッジ運営業務

##### [事業目的及び概要]

あおもり県民カレッジは、県民一人一人の主体的な学習と社会参加の推進を目指す体系的・継続的な学習支援システムである。その趣旨を踏まえ、学生に対するきめ細かな対応及び連携機関との緊密な連携など適切な運営を行う。また、イベントの開催や情報誌による普及啓発を行うとともに、学習相談・学習情報提供、学習機会の提供、ボランティア活動支援等を行う。

なお、カレッジ運営に当たっては、SDGsの各目標を意識した学習活動とするための働きかけを行う。

##### [事業内容及び結果]

#### (1) あおもり県民カレッジの運営全般

##### ア 学生募集

(ア) ポスター、チラシ(入学申込書)による募集

※募集チラシを更新、子どもカレッジコースの募集チラシを新たに作成し、各学校等に配布

(イ) イベント時にあおもり県民カレッジ(子どもカレッジ)コーナーを設置

(ウ) 各種講座・映画鑑賞会等の開催時に周知

(エ) 生涯学習情報誌「てのひら」、ホームページ等による周知

##### イ 学生対応

(ア) 入学受付(随時)

(イ) 学生数 28,818名(新規805名)

教養学習コース 26,587名

子どもカレッジコース 2,231名

(ウ) 単位認定サービス

認定証交付件数 183件(教養学習コース124件、子どもカレッジコース59件)

奨励賞交付件数 34件(教養学習コース21件、子どもカレッジコース13件)

##### ウ 学友会活動支援(中南地区及び三八地区)

##### エ あおもり県民カレッジ連携機関との連携・協力

(ア) 連携機関数：281機関(体験施設58か所を含む)

(イ) 連携機関連絡会議の開催

県民の生涯学習活動と社会参加活動の活性化に向け、6地区であおもり県民カレッジ連携機関の会議を開催し、地域キャンパス講座、生涯学習フェア、ボランティア活動支援等について意見交換するとともに、連携機関を含めた出席者相互の情報共有の場とする。

地区	日時(令和7年)	会場	参加機関数
東青	5月12日(月) 13:30~15:30	県総合社会教育センター2階第6研修室	31
西北	5月8日(木) 13:30~15:30	五所川原合同庁舎1階C会議室	7
中南	5月13日(火) 13:30~15:30	弘前合同庁舎本館2階会議室	11
上北	5月14日(水) 13:30~15:30	上北教育事務所1階大会議室	14
下北	5月23日(金) 13:30~15:30	むつ合同庁舎中会議室	7
三八	5月15日(木) 13:30~15:30	八戸合同庁舎1階第2会議室	14

(ウ) 教育事務所訪問により、あおもり県民カレッジの各地区の状況を説明

#### (2) 普及啓発事業

##### ア 生涯学習フェアの開催(9/27(土))

参加者：553名

主な内容 オープニング

チームスマイルキューティーによる「青の煌めきダンス」  
 あおもり県民カレッジ公開授業「学ぶことの楽しさ」  
 鳴海 敏之(みちのくエンカレッジの会)／高木 まゆみ(株式会社また旅クラブ)  
 ／氣仙 透(むつ市教育委員会指導主事／太田 寛人(青森明の星中学校1年)  
 あおもり県民カレッジ認定証交付式  
 記念講演「自己実現をかなえるためには」講師：白戸 且実(宗教法人弘法寺副住職)  
 学びと体験のひろば(ものづくり体験)  
 古本・絵本交換会  
 食彩ひろば

イ こども向けイベント

冬のこどもまなびフェスタの開催(2/21(土))

参加者：350名

主な内容 「みんなが先生！」ゼミナール(11組)

SDGs(おもちゃ病院／絵本・児童書交換会)

体験・遊び(中学生と学んで遊ぼう／子どもカレッジの部屋 他)

ウ 県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」の作成・発行(年4回)

エ 映画鑑賞会開催(隔月)

オ ホームページ、Facebook、Instagramによる情報提供

(3) 学習相談・学習情報提供事業

ア 学習相談の実施

窓口、電話、FAX、郵便、メール等による学習相談の受付 相談件数：66件

イ 学習機会情報の収集及び提供

青森県学習情報提供サイト(ありすネット)への学習情報の登録 登録件数：2,089件

ウ マスメディア活用による情報提供

テレビ、ラジオ、新聞を通して、講座、イベント情報や展示内容について告知

(4) 学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内6地区)の開催

開催数：計44回(東青6回、西北13回、中南7回、上北6回、下北6回、三八6回)

受講者数：延べ1,615名

(5) 社会参加活動支援

ア ボランティア講師による自主講座の開催講座数：44講座

受講者数：延べ391名

講師登録者数：137名

イ まなびサポーター(各種講座やイベントにおける運営ボランティア)の登録・活動奨励

登録者数：39名(内高校生17名)

延べ活動者数：67名

ウ イベント時における高校生・中学生ボランティアの活動奨励

延べ活動者数：52名

ボランティア活動証明書の発行

[成果]

- ・県民カレッジについては、イベントや主催講座等を通じて周知と啓発を図った。
- ・県民カレッジの入学、単位認定手続きについて、メールによる単位認定申請者がみられるようになった。
- ・学習機会提供事業では、地域キャンパス講座、ボランティア講師による自主講座等の開催数、受講者数が、コロナ禍による落ち込みから回復傾向にある。

[課題]

- ・県民カレッジの単位認定者数(実数)を増やすよう、メールに加えてスマホでの手続きができるようシステムを整え、入学、単位認定申請がしやすい方法を工夫していく。
- ・地域キャンパス講座、自主事業等については、社会的ニーズを踏まえた内容としていく。

## 県立図書館

### 近代文学館 特別展開催事業 1,615 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

文学に関心を寄せる方から普段文学に馴染みのない方まで、幅広い層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに沿った特別展を開催する事業である。

#### 〔事業内容〕

(1) 名称：特別展「棟方志功と青森の文人たち」

(2) 会期：7/19(土)～10/19(日)

(3) 内容：展示、特別展イベントを実施する。

ア 展示：令和7年に没後50年を迎えた棟方志功は、「板画家」としての原点が文学にあり、文人たちとの関わりも広がった。棟方志功と青森の文人たちとの交流に由来する資料を展示し、「世界のムナカタ」と青森の文学の関わりについて紹介した。

展示資料数：303点

イ 特別展イベント：

特別展に関心をもってもらうことを目的として、イベントを開催。

○石井頼子氏講演会「言霊の人 棟方志功～文学者たちとの交流～」

内容：棟方志功研究家の石井頼子氏(棟方志功令孫)が、棟方志功と文学との関わりについて講演。

日時：7/21(月・祝)14:00～15:30

場所：県立図書館集会室

#### 〔成果〕

・文章を中心に、書簡、原稿、書画、写真、図書雑誌(装幀本等)など、関連資料を幅広く展示し、県内外の棟方志功ファンをはじめ、幅広い年齢層の来館につながった。

#### 〔課題〕

・県内各地の幅広い世代の来館が定着するよう、魅力あるテーマの設定やイベントの計画を継続する必要がある。

### 近代文学館 企画展開催事業 627 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

文学に関心を寄せる方から普段文学に馴染みのない方まで、幅広い層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を中心に展示・公開する企画展を開催する事業である。

#### 〔事業内容〕

(1) 名称：企画展「作家とどうぶつ」

(2) 会期：12/6(土)～3/22(日)

(3) 内容：展示、企画展イベントを実施する。

ア 展示：青森県ゆかりの作家にまつわる動物(犬・猫・馬など)についてのエピソードや文学作品などについて紹介した。

展示資料数：232点

イ 企画展イベント：

企画展に関心をもってもらうことを目的として、イベントを開催。

○あおもりどうぶつ写真展

内容：「あおもり×どうぶつ」をテーマに、青森の高校生たちが撮った写真を展示。

日時：企画展開催期間常時

場所：近代文学館展示ギャラリー(企画展示室横)

○動物愛護写真展

内容：青森県動物愛護センターの保護犬・保護猫の写真及び動物愛護を啓発するパネルを展示。

日時：企画展開催期間常時

場所：企画展示室内

○あおもり文学ゼミ

内容：出品資料や展示内容について詳細に解説。

日時：12/21(日)14:00～15:30

場所：県立図書館研修室

[成果]

- ・こどもからお年寄りまで楽しめるよう、動物の写真など目で見て楽しめる資料を数多く展示し、来館者の好評を得た。

[課題]

- ・県内各地の幅広い世代の来館が定着するよう、魅力あるテーマの設定やイベントの計画を継続する必要がある。

**重点(3) イ 県民の生涯学習と学びを通じた社会参加の推進**

**県総合社会教育センター**

**ボランティア担当職員研修講座 56 千円**

[事業目的及び概要]

ボランティア担当職員、実践活動者等の資質の向上を目的とした研修講座を開催し、本県の社会参加活動の推進及び充実を目指す事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 期日：7/4(金) 13:00～15:30
- (2) 場所：県総合社会教育センター
- (3) 対象：市町村の教育委員会及び首長部局職員、NPOやボランティア関係団体、市町村社会福祉協議会職員、ボランティアに関心のある一般県民等
- (4) 受講者数：会場受講 30 名、オンライン受講 110 名、アーカイブ受講 20 名 計 160 名
- (5) 事業内容
  - ア 講義：「この地域が大好き！～先人から今、そして未来へ想いをつなぐ～」  
講師：青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科保育専攻 准教授 棟方 梢
  - イ 事例発表：ボランティア書道教室俊文書道会 代表・青森県立弘前豊学校 校長 西里 俊文  
日本赤十字社青森県支部 事業推進課 主事 岩井 雄太郎

[成果]

- ・アンケート記述から、「活動の入り口、きっかけ作りを提供していけるよう工夫したい。」「できる範囲で、地域ボランティア活動に参加していきたいと思う。」等、参加者の満足度の高さや意欲向上がうかがえた。
- ・青森県社会福祉協議会と共同開催し、ハイブリッド型の受講形態で実施したことにより、県内各地にサテライト会場ができ、広域学習ができた。

[課題]

- ・受講者の所属に偏りがあるため、各市町村教育委員会及びNPO活動支援担当課と連携し、NPOやボランティア関係団体等の多岐に渡る所属の方々にも参加を促す必要がある。
- ・サテライト会場ごとにオンラインの受信環境を整えて受講していただけるよう、システムの設定方法や受講中の留意点等について、事前に説明する必要がある。

**重点(3) ウ 性別・年齢・障がい等の有無に関わらない多様なニーズに応じた生涯学習環境の充実と社会参加活動の推進**

**県生涯学習課**

**特別支援学校における障がいに関する理解促進事業 1,452 千円**

[事業目的及び概要]

県立特別支援学校において、障がいのある児童・生徒を有する父母等が、こどもの健やかな成長のために、障がい児(者)の心理や行動について理解を深めたり、家庭における教育や卒業後の就労などにつ

いて必要な知識を習得したりするほか、県民を対象に特別支援学校の有する専門性を生かした公開講座を実施し、障がいに関する理解促進を図るための取組を行う。

【事業内容】

(1) 理解促進のための研修会

学校名	回数	時間	参加者数	主な内容			
県立青森第一養護学校	3	7	35名	パン作り体験、給食試食会、事業所見学			
県立青森第二養護学校	3	6	23名	こぎん刺し教室、防災教室、談話会			
県立青森若葉養護学校	2	4	27名	事業所見学、体験活動「災害に備える」			
県立青森第一高等養護学校	2	4	77名	福祉に関する学習会「障がい福祉サービスの利用等について」、保護者交流「めいせい祭を楽しもう」			
県立青森第二高等養護学校	4	9	59名	ガーデニング、メイク教室、二高養祭企画・準備・実施、ジュートバッグ作り			
県立盲学校	5	12	18名	地域の清掃活動、理療部について、進路指導講話、学校祭参加、栽培活動(幼児との交流)、点字ブロック理解啓発活動			
県立浪岡養護学校	6	13	160名	運動会参加、学習会「セラピー犬のお仕事」、「楽しい時間を『つくる』」、浪養祭「PTA展示」			
県立弘前第一養護学校	2	6	55名	施設・職場見学会(卒業後の進路先見学)、ひろいちカルチャー(クリスマススワッグ作り)			
県立弘前第二養護学校	4	9	71名	救命講習会、親子音楽鑑賞、保護者福祉施設見学、進路講演会			
県立弘前聾学校	6	15	91名	職場・施設見学、地域交流、親子レクリエーション、ドローンプログラミング体験、フラダンス体験、お口の成長と身体のつながり			
県立八戸第一養護学校	3	9	39名	合同研修会「美術館の作家さんと出会う」「地域で生涯を通じて共に学び、生きるということ」、療養介護等施設見学、珈琲入れ方講座			
県立八戸盲学校	6	12	21名	保護者交流会(学校行事への協力、ホヤランプ作り、扇風機拭き)、盲導犬ふれあい体験会、防災体験研修			
県立八戸聾学校	5	5	36名	盲聾合同PTA奉仕作業(運動会装飾、扇風機清掃)、防災について			
県立森田養護学校	2	8	21名	こけだま作り、森養祭に向けての活動			
県立黒石養護学校	3	4	18名	研修会(ヨガ教室、コサージュづくり)			
県立七戸養護学校	2	8	23名	福祉施設見学会、そば作り講習会			
県立むつ養護学校	4	9	130名	グラウンドの石拾い、園芸教室、レクリエーション教室、父母学習会(食のひろがり)			
県立八戸高等支援学校	4	12	95名	進路学習会「就労継続支援B型事業所・生活介護事業所について」「一般就労・就労継続支援A型事業所への就労について」「八戸東洋水産株式会社の障がい者雇用について」「企業見学会」保護者勉強会			
合計	延べ回数	66回	延べ時間	152時間	参加者数	合計	999名

## (2) 公開講座

学校名	期間	日数 (回数)	内 容	参加者数
県立盲学校	9月	1回	体験学習「歩行体験をしよう」	8名

## [成果]

- ・参加した父母等が家庭における教育や卒業後に見通しがもてるようになった。
- ・参加した保護者同士の横のつながりができている。
- ・行政機関や障害福祉サービス事業所等、学校外の多様な主体と連携しながら実施することができた。

## [課題]

- ・障がい理解を深める父母対象の研修と県民対象の公開講座が、県民にも広がることを期待したい。

<b>障がい者の生涯学習支援事業</b>	<b>1,132千円</b>
----------------------	----------------

## [事業目的及び概要]

特別支援学校卒業生の自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団学習や趣味の講座、障がい者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

## [事業内容]

## (1) 社会参加学習

学校名	回数	時間	参加者数	主な内容		
県立青森第二養護学校	5	12	207名	運動会参加、レクリエーション、ボウリング教室、スポーツ体験、会報の発行		
県立青森若葉養護学校	2	4	20名	「ボウリング」、「障がい者スポーツ体験」(入級生、職員、地域の方との交流)		
県立青森第一高等養護学校	2	4.5	101名	スポーツ体験活動「ボッチャ」交流「めいせい祭を楽しもう」(在校生、卒業生、保護者、職員との交流)		
県立青森第二高等養護学校	3	14	221名	地域ブロック活動(情報交換、親睦会、レクリエーション)、学校祭参加(情報交換、展示及び模擬店見学、作業体験)、同窓生の集い(レクリエーション)		
県立盲学校	1	4	2名	学校祭参加(発表の観賞、運営の手伝い)		
県立浪岡養護学校	3	6	17名	運動会、同窓会、二十歳を祝う会		
県立弘前第一養護学校	3	8	90名	ひまわりの会総会参加(親睦)、レクリエーション(ニュースポーツ)、高等部祭参観(会員相互の親睦及び将来の会員との交流)		
県立弘前第二養護学校	1	2	24名	ハーバリウム教室		
県立八戸第一養護学校	2	6	79名	夏を楽しむ会&20才を祝う会、ボウリング大会		
県立八戸第二養護学校	1	2.5	109名	卒業生スポーツ交流		
県立八戸盲学校	2	8	15名	スポーツ体験、箏教室		
県立森田養護学校	3	12	83名	スポーツ交流、音楽鑑賞会、二十歳のお祝い		
県立黒石養護学校	3	9	73名	レクリエーションスポーツ&ゲーム、映画鑑賞会、学習発表会鑑賞・懇談・交流		
県立七戸養護学校	3	10	90名	二十歳を祝う会、レクリエーション		
県立むつ養護学校	4	10	382名	交流会、卒業生のお知らせ、卒業生スポーツ交流会		
県立八戸高等支援学校	1	4	120名	同窓会		
合計	延べ回数	39回	延べ時間	116時間	参加者数合計	1,633名

## (2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/6(日)	県立森田養護学校	30名	卓球バレー
7/6(日)	県立黒石養護学校	32名	レクリエーションスポーツ
7/27(日)	県立青森第一高等養護学校	30名	ボッチャ教室
10/19(日)	県立弘前第一養護学校	35名	レクリエーション
11/1(土)	県立青森若葉養護学校	20名	ニュースポーツ教室
12/13(土)	県立青森第二養護学校	30名	レクリエーション
合計	開催回数 6回	参加者数合計	177名

### [成果]

- ・多様な学習やスポーツを通じ、卒業生が他者と交流する機会を提供できた。
- ・また、卒業後の運動機会の創出が、参加者全員にとって豊かな学びとなった。

### [課題]

- ・多様なニーズに対応できる活動内容の選定をするため、事前アンケート等の実施が必要。
- ・新規の参加者確保のため事前周知の工夫等が必要であるが、学校に業務負担をかけずにできる方法を考える必要がある。

## 県総合社会教育センター

学習情報の収集・提供事業 11,936千円

### [事業目的及び概要]

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報を収集し、一覧をインターネットにより県民へ提供するほか、いつでも、どこでも、インターネットで手軽に学べるeラーニング教材の配信及び管理を行うとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理し、ICT講座等を実施できる環境を整備する事業である。

### [事業内容]

#### (1) 学習情報の収集・提供

4情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供。

- ・登録データ件数は計4,931件(学習機会情報2,090件、指導者人材情報65件、団体・サークル情報70件、視聴覚教材情報2,706件)
- ・ありすネットへのアクセス回数は計2,620回(学習機会情報1,054回、指導者人材情報425回、団体・サークル情報767回、視聴覚教材情報374回)

#### (2) インターネットによるeラーニング学習教材の配信

以下のeラーニング学習教材の配信及び管理。

- ア 元気青森人 PowerUp コンテンツ 92本(アクセス数431件)
- イ あおもり学インターネット講座 21本(アクセス数510件)
- ウ あおもり子育てネット 45本(アクセス数2,193件)

#### (3) サーバ・パソコン機器等維持管理

学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の整備。

### [成果]

- ・県民の生涯学習活動を支援するため、学習情報提供サイト「ありすネット」を運用し、インターネットを通して広く県民へ様々な情報提供を行った。また、提供する情報に係る更新調査アンケートを実施した。
- ・eラーニング教材の配信による県民への学習機会の提供を行った。
- ・学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の維持管理を行い、実習環境を整備した。

### [課題]

- ・県民のニーズに合った学習情報提供の在り方を検討していく必要がある。
- ・eラーニング学習教材が県民に活用されるよう、ターゲット層への周知に工夫が必要である。
- ・パソコン実習室のインターネット環境を維持するため、令和8年度に通信用機器の更新をする必要がある。

## 青森県視聴覚ライブラリー運営事業 645 千円

### 〔事業目的及び概要〕

県内の視聴覚教育の振興発展に寄与するに当たり、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営し、映像資料の収集・保管、及び活用を図る。

### 〔事業内容〕

- (1) 社会教育及び県民の学習活動のための視聴覚資料の提供
- (2) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (3) 視聴覚教材の購入
- (4) 視聴覚教材のデジタル化業務
- (5) 保管されている映像資料の点検と台帳管理

### 〔成果〕

- ・視聴覚教材 DVD4 本購入
- ・過去に事業で作成したVHS 272 本、β 230 本をDVD化

### 〔課題〕

- ・引き続きデジタル化を進めるとともに活用方法について検討していく必要がある。

## 県立図書館

### 読書バリアフリー推進事業 1,256 千円

### 〔事業目的及び概要〕

視覚障がい等さまざまな障がいのある方が図書館をより利用しやすい環境に整備することを目的として、大活字本やデイジー図書等のアクセシブルな書籍の購入や読書バリアフリーのための機器・用具を整備する事業である。

### 〔事業内容〕

- ・読書バリアフリー推進に係るアクセシブルな書籍や機器・用具等の整備
- ・関係団体への情報提供

### 〔成果〕

- ・アクセシブルな書籍や機器を整備し、障がい者や高齢者が利用しやすい環境を整えた。
- ・各団体の担当者及び障がい当事者に対し、当館のバリアフリーサービスについての広報活動を行い、制度やサービス内容を知ってもらう機会をつくることのできた。

### 〔課題〕

- ・各種備品の耐用年数や経年劣化の度合い等を考慮し、計画的な更新が必要である。
- ・利用者が少ないことから、サービス内容を広く知ってもらうため、関係機関と連携し関連イベント等で当館のバリアフリーサービスに関する展示を行う等、積極的な広報活動が必要である。

### アウトリーチサービス推進事業 428 千円

### 〔事業目的及び概要〕

障がいなどの事由により、図書館への来館が困難な方に対して、宅配便等による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

### 〔事業内容〕

利用登録者から、電話・郵便・メール等により希望図書の申込みを受け、宅配便等を利用(費用は図書館が負担)して貸出・返却を行う。

### 〔成果〕

- ・県立図書館に直接来館することが難しい利用者に対して、求める資料情報を提供できた。
  - 登録者数：25 名(うち新規登録者数 4 名)
  - 貸出：件数 124 件/冊数 816 点

### 〔課題〕

- ・アウトリーチサービスによる貸出は県立図書館が所蔵する資料を対象としており、希望図書を所蔵していない場合の対応が課題である。

## 重点(4) 社会教育推進のための基盤整備

### ア 社会教育推進体制の充実

#### 県生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 1,073 千円

##### [事業目的及び概要]

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制の整備を目的として、生涯学習推進本部等を運営する事業である。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議することを目的として、生涯学習審議会を運営する事業である。

##### [事業内容]

##### (1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一體的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

##### (2) 第17期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(R6/10/19～R8/10/18)

○諮問：ふるさと青森を愛し、誇りに思う人づくりに向けた生涯学習・社会教育における推進方策について

○審議事項：1 公民館等の社会教育施設におけるこどもたちの継続的な地域学習の推進について

：2 こどもたちの主体的な地域活動の促進について

：3 地域に根付いた持続可能な取組にするための仕組みづくりについて

○会議等：第3回審議会 5/26(月) 総合調査研究の結果報告、実地調査について

実地調査 7/11(金)～8/26(火) 県内11か所の調査

第4回審議会 9/25(木) 実地調査の結果報告・分析について、審議事項に係る答申骨子案(方向性)について

実地調査 10/16(木)、10/17(金) 県外2か所の調査

第5回審議会 1/22(木) 審議事項に係る答申骨子案(構成・記載内容)について

##### [成果・課題]

・審議事項について多角的な視点からの議論を通じて、実現可能性のある生涯学習・社会教育推進方策を具体的な提言として整理・まとめられるように調査、審議中である。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 697 千円

##### [事業目的及び概要]

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う事業である。

##### [事業内容]

○調査テーマ：こどもの学校以外における地域活動に関する実態調査

○調査対象：県内小学校5年生、中学校2年生、高等学校2年生

○顧問の委嘱：弘前大学教育学部 准教授 越村 康英

八戸学院大学地域経営学部 特任准教授 井上 丹

○報告書：関係機関に配布するほか、ホームページで公開

##### [成果]

・本県の「こどもの学校以外における地域活動」の基礎資料を収集することで、現状と課題を可視化できた。

##### [課題]

・調査結果の公表が年度後半になることで、現状や課題の活用が次年度以降になる。

## 青森県社会教育委員の会議の運営 134 千円

### 〔事業目的及び概要〕

社会教育法第 17 条に基づき、県教育委員会に答申、建議を行うことを目的として、本県社会教育の振興方策について審議及び調査研究を行う事業である。

### 〔事業内容〕

第 37 期青森県社会教育委員の会議

○委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務

○任期：2年(R6/10/19～R8/10/18)

○調査研究テーマ：ふるさと青森を愛し、誇りに思う人づくりに向けた生涯学習・社会教育における推進方策について

○会議等：第2回青森県社会教育委員の会議 11/28(金) 審議事項に係る答申骨子案(構成・記載内容)について

### 〔成果・課題〕

・審議事項について専門的な協議を通じて、改善方策や必要な方策を検討中である。

## 市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成 250 千円

### 〔事業目的及び概要〕

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

### 〔事業内容〕

- (1) 市町村の社会教育行政調査
- (2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査
- (3) 「令和 7 年度青森県の社会教育行政」の作成配布(250 部作成)

### 〔成果〕

- ・「市町村の社会教育行政調査」及び「市町村の生涯学習推進体制等の状況調査」については、他機関で類似資料が公開されていることから、内容を精査の上、実績調査のみを実施した。
- ・「令和 7 年度青森県の社会教育行政」において、県や市町村の社会教育事業の概要・実績、社会教育行政の現状を取りまとめ、電子データでの配布を活用し、情報の管理・共有の効率化を図った。

### 〔課題〕

- ・社会教育施策の企画・立案に役立つ資料とするため、記載内容を整理し、方針や重点に基づく施策の目的や方向性を明確に示し、見やすく改善する必要がある。

## 重点(4) イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

### 県総合社会教育センター

#### インフォメーションプラザありすの運営

### 〔事業目的及び概要〕

生涯学習に関する総合窓口として、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービス、逐次刊行物

### 〔事業内容及び結果〕

- (1) 窓口対応時間 9:00～19:00
- (2) 視聴覚教材貸出サービス
- (3) ポスター、チラシの配架
- (4) 学習成果の展示

ア 階段ギャラリー、コリドー展示室、2階展示ギャラリー「画伯のたまご」、ギャラリーありす、1階ロビー等を活用して、多様な作品を展示した。

イ 季節ごとの館内装飾と展示

### 〔成果〕

- ・インフォメーションプラザありす、ロビーのラーニングスペース、自主学习室、ほのぼのルームの各利用者数は、コロナ禍による落ち込みからやや回復傾向にある。個人の学習スペースとして定着してきているものと考えられる。

- ・展示スペースについては、所内各スペースの展示内容を区分し、それぞれに特徴ある作品を展示するようにしている。ギャラリーありすは、ボランティア講師による自主講座の講師や受講者の作品を展示するなど、学習成果を生かす場ともしている。また、1階ロビーに、青森県高等学校総合文化祭における優秀作品展示、統計グラフコンクール入賞作品展示など、時宜に応じた展示を行った。

**[課題]**

- ・引き続き適切な窓口対応、電話対応を心がけ、利用者数が増えるよう努める。
- ・定期的な展示替えにより来館者が楽しめる展示とする。

## 県立図書館

**県立図書館資料整備 66,797 千円**

**[事業目的及び概要]**

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的に、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。また、令和3年度からは非来館型サービスとして、電子書籍の閲覧ができる電子図書館システムを開始している。

**[事業内容及び結果]**

受入資料数(R7/4/1～R8/3/31)

区分	資料整備費	受入資料数
県立図書館	60,637 千円	20,105 冊
(うち電子書籍)	(5,280 千円)	(674 冊)
近代文学館	6,160 千円	10,046 冊
合計	66,797 千円	30,151 冊

電子書籍の利用(R7/4/1～R8/3/31)

合計閲覧数	5,996 件
-------	---------

**[成果]**

- ・購入及び寄贈による資料の受入は例年と同程度を維持している。電子図書館サービスは、開始した令和3年度から利用が増え続けている。

**[課題]**

- ・利用者アンケートにおいて、電子図書館サービスを知らない・利用したことがないという利用者が多かったことから、認知度の向上を図るためのイベントを実施し、サービスを周知する必要がある。

### 重点(4) ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上

## 県生涯学習課

**社会教育主事有資格者育成派遣事業 643 千円**

**[事業目的及び概要]**

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校・義務教育学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

**[事業内容]**

- 派遣研修：岩手大学社会教育主事講習
- 研修期間：7/14(月)～8/7(木)

**[成果]**

- ・派遣された教員や指導主事が社会教育主事講習を受講することで、地域や学校教育との橋渡し役としての専門性を身につけ、社会教育指導体制が段階的に強化されていく。

**[課題]**

- ・派遣人数が少なかったため、県内全域での社会教育主事の養成や指導体制の充実が十分に進んでいない。

## 生涯学習専門講座派遣事業 184 千円

### [事業目的及び概要]

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

### [事業内容]

- 派遣先：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
- 講座名：社会教育主事専門講座
- 研修期間：9/19(金)～9/25(木)
- 派遣人数：県生涯学習課 社会教育主事 1名

### [成果]

- ・生涯学習振興に関する専門知識や実践力を向上させ、自らの職務においてその知見を活用することができた。

### [課題]

- ・研修を受けた職員が個人の範囲でのスキル向上に留まり、組織内での共有が進まない場合がある。

## 社会教育主事等一般研修 163 千円

### [事業目的及び概要]

生涯学習審議会、総合社会教育センター及び教育事務所の社会教育担当者の資質向上と更なる連携及び情報の共有を図ることを目的として、県社会教育関係職員が一堂に会し、生涯学習・社会教育に係る学習や情報交換をする事業である。

### [事業内容]

合同学習会を4回実施し、情報交換や事業立案を通して、社会教育担当者の資質向上と連携及び情報の共有を図っている。

- 日程等：第1回 4/22(火) 自己紹介、生涯学習・社会教育の基本、事業立案のための情報交換
- 第2回 7/31(木) 事業内容検討
- 第3回 9/16(火) 事業発表
- 第4回 12/17(水) 講義「生涯学習・社会教育の動向」「事業立案のポイント」  
演習「事業・講座づくり」  
講師 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター  
専門調査員 新木 圭彦

### [成果]

- ・職員の知識習得やスキル向上が図られ、情報共有を通じてネットワークが形成されることで連携の基盤が構築された。

### [課題]

- ・合同学習会終了後のフォローアップ体制が不足したことで、長期的なネットワーク形成や協力深化が進みにくかった。

## 県総合社会教育センター

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 931 千円

### [事業目的及び概要]

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上とネットワーク形成を図るため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修及び地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得のための研修を実施する。

**[事業内容]**

(1)センター研修(会場：県総合社会教育センター、定員：各回 30 名程度)

**【新任職員研修】**

〈前期〉

開催日時	6/13(金)10:00～15:00
受講形態	会場受講及びアーカイブで後日視聴(講義のみ)
内 容	<b>【講義】</b> 「いま、生涯学習・社会教育関係職員に求められること」 <b>【演習】</b> 「熟議」を体験してみよう ～発表しない、まとめない!?えっ!?～ 講師 秋田大学教育文化学部 非常勤講師 皆川 雅仁

〈後期〉

開催日時	2/19(木)10:00～15:00
受講形態	会場受講及びアーカイブで後日視聴(講義のみ)
内 容	<b>【講義・演習】</b> 「学びを通じた地域づくり」 ～社会教育職員に期待される役割とは～ 講師 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英

**【選択研修】**

〈第1回〉

開催日時	6/27(金)10:00～15:00
受講形態	会場受講及びアーカイブで後日視聴(講義のみ)
内 容	<b>【講義・演習】</b> 「広報業務に係るSNS活用の実際」 講師 ディーシーティーデザイン 代表 蝦名 晶子

〈第2回〉

開催日時	7/8(火)10:00～15:00
受講形態	会場受講
内 容	<b>【実践演習】</b> 「オンライン会議・研修の実施方法」 講師 県総合社会教育センター 職員

〈第3回〉

開催日時	7/15(火)10:00～15:00
受講形態	会場受講
内 容	<b>【講義・演習】</b> 「スマホ1つでOK!動画作成講座」 ～基礎と実践まるわかり編～ 講師 エイチピーススタイリング 代表 高森 三樹

〈第4回〉

開催日時	8/29(金)10:00～15:00
受講形態	会場受講及びアーカイブで後日視聴(講義のみ)
内 容	<b>【講義】</b> 「障がい者の生涯学習を支える自治体の役割」 講師 国立市公民館 館長補佐 社会教育主事 井口 啓太郎  <b>【実践事例紹介・ワークショップ】</b> 「障がい者の生涯学習」はじめの一歩 ～社会的包摂への一歩を踏み出すために～ 講師 秋田県生涯学習センター 副主幹(兼)学習事業チームリーダー 柏木 睦

〈第5回〉

開催日時	11/10(月)10:00～15:00
受講形態	会場受講及びアーカイブで後日視聴(講義のみ)
内 容	<b>【講義・演習】</b> 「参加意欲を促すチラシの作り方」 講師 青森大学 客員教授 青森県立保健大学 非常勤講師・客員研究員 竹林 正樹

〈第6回〉

開催日時	12/3(水) 10:00～15:00
受講形態	会場受講
内 容	【実践演習】「ファシリテーター養成講座」初級編 講師 県総合社会教育センター 職員

【取組実績】

研修名	会場受講者(名)	アーカイブ(名)
新任職員研修前期	24	25
新任職員研修後期	11	28
選択研修第1回	13	24
選択研修第2回	10	
選択研修第3回	13	6
選択研修第4回	12	15
選択研修第5回	23	18
選択研修第6回	10	

【成果】

- 市町村職員のニーズに応じた研修講座を提供し、必要な知識やスキルの習得を支援した。また、テーマごとの動向や整理すべき考え方を研修内容に盛り込むことで、参加者が現状をより具体的に理解し、自身の課題として認識するきっかけを提供した。

【課題】

- 市町村職員のニーズに応じた研修内容の充実やテーマごとの動向及び整理すべき考え方を的確に研修内容に盛り込むことが求められる。

(2) 地区研修(各地区全て会場参集で開催、定員：30名程度)

	実施日時	場所	内容
東青	5/13(火) 13:00～ 15:00	県総合社会教育センター	【講義・演習】 「業務軽減につながるICTの利用について」 講師：ディーシーティーデザイン 代表 蝦名 晶子
西北	9/10(水) 13:30～ 16:10	日本海拠点館	【講義・演習】 「地域学校協働活動をリノベーションするCS」 ～CSと地域学校協働活動、ここからでしょ～ 講師：秋田大学教育文化学部 非常勤講師 皆川 雅仁
中南	7/23(水) 13:30～ 15:30	平川市文化センター	【講義・演習】 「社会教育委員としての役割について」 ～地域づくりを支える社会教育～ 講師：青森明の星短期大学 青森公立大学 北里大学 非常勤講師 渡部 靖之
上北	5/21(水) 13:00～ 16:15	おいらせ町 みなくる館	【講義・演習】 「まちづくりのファシリテーション技術」 講師：弘前大学大学院地域社会研究科 准教授 土井 良浩
下北	6/25(水) 13:30～ 16:00	下北文化会館	【講義・演習】 「もったいないから未来をつくる」 講師：一般社団法人もったいない研究所 代表理事 岡 詩子
三八	9/22(月) 13:30～ 15:40	五戸町立 公民館	【講義・演習】 「地域の次代を担う若者の育成」 講師：NPO法人ACTY 理事長 株式会社ACプロモート 代表取締役 町田 直子

**【取組実績】**

地区名	東青	西北	中南	上北	下北	三八
会場受講者(名)	24	28	26	60	10	28

**【成果】**

- ・地区研修を通じて地域のニーズや状況に基づいた研修内容を企画し、地域特性に応じた支援を提供した。

**【課題】**

- ・各地区の希望に基づき企画・立案しているものの、内容や対象がそれぞれ地区によって異なり、本来の趣旨を達せられない場合や、市町村の課題解決につながらないケースが散見される。

**(3) 市町村等の取組への伴走型支援**

ア 市町村等の取組をサポートするため、希望する市町村等にセンター職員を派遣し、市町村等の職員とともに課題解決に取り組む、伴走型の支援を行う。

**イ 伴走型支援の方法等**

○募集開始：4月

○職員派遣：随時(年間10回程度)

○依頼方法：申込書提出

○支援内容：当センターが実施する事業等のノウハウや専門職としての知見及び経験に基づいた、指導・助言・相談等を行う。

〈例〉・事業の企画・立案についての相談

・研修講座の講師選定に係る相談

・コミュニティ・スクールにおける熟議(以下CS熟議)の指導・助言

・オンライン配信機器接続の仕方についての指導・助言

・研修会への職員派遣 等

○支援方法：電話、メール、面談等により、相談内容を改めてヒアリングし、アドバイスや情報提供等を行う。

**【取組実績】**

・五戸町教育委員会：研修会講師選定及び研修会内容の指導・助言

・東北町教育委員会：コミュニティ・スクール立ち上げについての指導・助言

・おいらせ町教育委員会(2件)：研修会講師選定及び研修会内容の指導・助言

・弘前市教育委員会(3件)：研修会内容の相談及び当センター講師派遣

・青森市立葺町小学校：研修会講師選定

・教育庁文化財保護課：オンライン配信機器接続の仕方について(社セ大研修室)

・八戸市立城北小学校：CS熟議の指導・助言及び当センター講師派遣

・八戸市立吹上小学校：CS熟議の指導・助言及び当センター講師派遣

・つがる市教育委員会：研修会講師選定及び研修会内容の指導・助言

・大鰐町教育委員会：CS熟議の指導・助言及び当センター講師派遣

・黒石市教育委員会：研修会講師選定及び研修会内容の指導・助言

**【成果】**

- ・伴走型支援では14件の申し込みがあり、市町村からは専門的アドバイスや状況に応じた具体的な支援が求められている。申し込み件数は想定を上回ったことより、伴走型支援の必要性が判明した。

**【課題】**

- ・市町村の事業課題が多様化する中、専門家との連携が不可欠であることから、今後センターは、育成支援だけでなく市町村担当者と専門家をつなぐ橋渡し役として実効性のある事業展開を支える体制の整備を目指すとともに、職員の専門的な知識向上を図る必要がある。

## 県立図書館

### 市町村立図書館等職員研修事業 197 千円

#### 〔事業目的及び概要〕

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を目的として、各市町村立図書館等職員及び学校図書館の業務を担当する職員に対し、研修を実施する事業である。

#### 〔事業内容〕

##### (1) 初任者研修

ア 開催日	6/11(水)～6/12(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	勤務経験が概ね2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	1日目：市町村立図書館等職員22名、学校図書館業務担当職員7名 2日目：市町村立図書館等職員16名、学校図書館業務担当職員4名
オ 内容	図書館の役割や基本的なサービス等を理解するための研修 「講話、関係法規、公共図書館の現状と課題・県立図書館の読書バリアフリーの取組、学校図書館の現状と課題、資料管理、児童サービス、グループワーク」

##### (2) 基本研修

ア 開催日	9/18(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員54名、学校図書館業務担当職員13名、その他4名
オ 内容	テーマ「資料保存研修—本の修理を中心に—」
カ 講師	公益社団法人日本図書館協会 資料保存委員会 委員長 田崎 淳子 宮内庁書陵部 修復師 佐々木 紫乃

##### (3) 学校図書館支援研修

ア 開催日	10/29(水)
イ 場所	県総合学校教育センター
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員、教育行政関係者等
エ 参加者	市町村立図書館等職員27名、学校図書館業務担当職員10名、その他15名
オ 内容	テーマ「こどもたちの学びを支えるために私たちができること」

##### (4) ステップアップ研修

ア 開催日	11/26(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員34名、学校図書館業務担当職員2名、その他1名
オ 内容	テーマ「図書館の危機管理—こったとぎ、どやせばいんだべ?—」
カ 講師	福島県白河市教育委員会事務局参事兼図書館長 中沢 孝之

#### 〔成果〕

- ・各市町村において、より質の高い図書館サービスを住民に提供できるよう、また、学校図書館の利用が促進されるよう、図書館業務の基本的な知識や技術を幅広く涵養し、職員の資質向上を図ることができた。また、研修の中で行われた情報交換等により、他館の具体的な事例を共有し、職員同士の交流拡大とネットワーク強化につながった。

#### 〔課題〕

- ・図書館業務の基本的な内容を習得する初任者向け研修、専門的・高度な知識・技術が求められる経験年数や役職等に応じた研修、社会の変化や新たな課題に対応した図書館サービスに必要な最新の知識等を習得する研修等、各館の図書館サービスの状況等や職員のキャリアに対応した研修内容やレベルの設定が課題である。また、講義だけでなく、演習等を含む実践的な研修やインターネット

を活用した研修等、手法や形態を含めた内容の充実が必要である。

## 重点(4) エ 社会教育関係団体等の活動の支援

### 県生涯学習課

在学青少年育成費補助事業 359 千円

#### [事業目的及び概要]

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

#### [事業内容]

東京青森県人会及び青森県高等学校校長協会が実施する高校生を対象とした講演会事業に助成する。

○内容：主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師に、高校生を対象とした講演会を開催する。

○実施場所：県内高等学校 6 校

(県立北斗高等学校、県立浪岡高等学校、県立鱒ヶ沢高等学校、県立五所川原高等学校、県立八戸商業高等学校、八戸工業大学第二高等学校)

#### [成果]

- ・本県にゆかりのある著名な講師による、職業観や人生観等をテーマとする講演は、高校生にとって、これから直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくための多くの示唆を与える機会となっている。

#### [課題]

- ・来年度以降は 2 地区 4 校での開催となり、講演会の機会が減少するが、地域づくり政策課においても県内居住の方を講師とし、キャリア形成を目的とした講演会を実施しているため、連携を図る必要がある。